

2024 年度 医療科学部 IR 報告書

— 2023 年度 卒業生を対象とした
ディプロマ・ポリシー到達度調査
(就職先施設管理者による評価) —



藤田医科大学 IR 推進センター
医療科学部 IR 分室

2024 年 12 月 26 日

藤田医科大学 IR 推進センター
医療科学部 IR 分室

2024 年度 医療科学部 IR 報告書

2023 年度 卒業生を対象とした
ディプロマ・ポリシー到達度調査
(就職先施設管理者による評価)

2024 年度 医療科学部 IR 報告書

「2023 年度 卒業生を対象とした ディプロマ・ポリシー到達度調査（就職先施設管理者による評価）」について

本学の教育目標を達成するため、教育および学生支援に関する諸データの統合分析と情報提供等を行い、本学の教育活動の充実発展に寄与することを目的として、藤田医科大学 I R (Institutional Research) 推進センターが設置されています。今回、下部組織の医療科学部 I R 分室では、2023 年度の医療科学部の卒業生を対象とした医療科学部および各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価アンケートを行いましたので、その集計・分析結果について報告いたします。

2024 年 12 月 26 日

2024 年度 藤田医科大学 I R 推進センター 医療科学部 I R 分室
武藤晃一、塩竈和也、坪井良樹、白川誠士、五十川由枝、村川のぞみ

目 次

1. 分析結果の概要.....	1
2. ディプロマ・ポリシーについて.....	2
2-1) 学部ディプロマ・ポリシー	2
2-2) 学科ディプロマ・ポリシー	3
3. 学部ディプロマ・ポリシーの到達度.....	6
3-1) アンケート調査方法.....	6
3-2) 調査概要、調査結果および到達度の分析.....	8
3-2-1) 学部全体としての分析.....	14
3-2-2) 学科間の比較	14
3-3) 各学科の調査結果および到達度の分析.....	17
3-3-1) 医療検査学科	17
3-3-2) 放射線学科	19
4. 学科ディプロマ・ポリシーの到達度.....	21
4-1) アンケート調査方法.....	21
4-2) 各学科の調査概要、調査結果および到達度の分析	21
4-2-1) 医療検査学科	21
4-2-2) 放射線学科	25
5. 学部ディプロマ・ポリシーの到達度の経年的分析.....	28
6. 学科ディプロマ・ポリシーの到達度の経年的分析.....	31
6-1) 医療検査学科	31
6-2) 放射線学科	34
7. 参考資料	37

1. 分析結果の概要

本学の教育のさらなる質の向上を目指し、2023年度医療科学部卒業生を採用いただいた医療施設の管理担当者に対して、本学科卒業生の医療科学部ディプロマ・ポリシーおよび各所属の学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度を評価していただくアンケート調査を実施し、集計・分析を行った。

2023年度医療科学部卒業生を採用いただいた101施設にアンケート調査を実施し、66施設から回答が得られた。回収率は65.3%であり、昨年度調査(61.5%)とほぼ同様であった。

医療科学部ディプロマ・ポリシー8項目に対する到達度の就職先管理担当者の評価は、学部全体では8項目すべてにおいて、施設間での評価値のばらつきは小さいものであった。各評価値の中央値は「4：最低水準は修得できている」以上で、「DP8：コミュ力」は「5：概ね修得できている」であった。8項目の回答のうち、「4：最低水準は修得できている」以上の回答は74.8%(2023年度調査：82.3%)、「2：十分に修得できていない」以下の回答数は5.3%(2023年度調査：2.7%)であった。評価値の平均値が高かった上位3項目は「DP6：責任行動」(4.44)、「DP1：専門知識」(4.33)、「DP8：コミュ力」(4.30)であり、2023年度調査と順位は異なったが同じ3項目が上位であった。最も低かったのは唯一平均値が4を下回った「DP4：国際解決」(3.73)であった。これも、2023年度調査と同様であった。

学生の自己評価によるディプロマ・ポリシーに対する到達度の調査結果と比較すると、就職先管理担当者の評価は総じて低くなる傾向を示したが、その差は-0.72~-0.38であり、大きな差異は認めなかった。学生自己評価と就職先管理担当者の評価の平均値の差が小さかったのは「DP1：専門知識」(-0.38)、大きかったのは「DP2：倫理教養」(-0.72)であった。学科間で比較すると、医療検査学科と放射線学科の卒業生に対する就職先管理担当者評価はほぼ同様な分布を示しており、DP項目間での大きな差はなかった。学生自己評価と就職先管理担当者の評価の平均値の差では、医療検査学科より放射線学科の卒業生の方が自己評価の平均値が高めであり、若干差が大きい傾向を示した。これは昨年度までの調査結果と同様の傾向であった。

各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先管理担当者による評価は、全ての学科で各ディプロマ・ポリシーの評価の中央値は「4：最低水準は修得できている」以上であった。医療検査学科では「DP2：倫理責任」の中央値が「5：概ね修得できている」となった。これは2023年度調査と同様であった。放射線学科では「DP1：倫理態度」の中央値が「5：概ね修得できている」となった。

学生の自己評価と比較すると、就職先管理担当者の評価はどの項目においてもその評価値の平均値は低い傾向を示した。就職先管理担当者の評価と学生自己評価の差は、医療検査学科(差の平均値：-0.59)と放射線学科(差の平均値：-0.57)とでほぼ同様であった。

上述の結果は、これまでの卒業生とほぼ同様の傾向であった。よって、医療科学部の2学科において、学部および学科のディプロマ・ポリシーの達成度は十分に高く、教育は持続的に高い質を維持できていると考えられる。ただし、ディプロマ・ポリシーの「国際解決」に関する項目の評価が低い傾向は継続的であった。今回の調査では評価協力施設に

対し、「2：十分に修得できていない」以下の回答をする場合にその理由を自由回答するよう設定した。他のDP項目と比較して低評価であった「DP4：国際解決」については、「日常臨床業務の修得で手いっぱい、まだ入職者に対応を求める状況にない」とのコメントが複数あり、そもそも評価することが困難な設問に対して「3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない」以上の評価はできず、結果として「2：十分に修得できていない」を選択していることが推察された。就職先施設管理者の評価基準が厳しい面があることに加え、評価することが困難との判断からも「DP4：国際解決」において低い評価が出ていると考えられる。今後も、自ら考え方やグローバル化に関する教育を充実させていくとともに、就職先施設のニーズに応えられるような教育内容の改善を継続していく必要がある。

2. ディプロマ・ポリシーについて

ディプロマ・ポリシー (Diploma Policy) とは、高等教育機関における卒業認定・学位授与に関する方針である。

藤田医科大学では学部レベルと学科レベルにて、学生が卒業する時に最低限身につけているべき知識・理解・思考・判断・興味・関心・態度・技能・表現について具体的にまとめ、これをディプロマ・ポリシーとして設定し、公表している。ディプロマ・ポリシーは、本学の教育に関する質保証に資するために策定される。

2-1) 学部ディプロマ・ポリシー

医療科学部では、学部レベルのディプロマ・ポリシーを策定している。2023年度卒業生に対する学部ディプロマ・ポリシーについて表2-1に示す。

表2-1. 医療科学部ディプロマ・ポリシー

医療科学部は、臨床検査学、放射線学、臨床工学および医療経営情報学の専門的教育と研究の過程を経て、以下のような能力と素養を身につけた学生に対して学士の称号を与えます。

(知識・理解)

- 1) 医療人としての専門分野の学修内容について知識を修得している。
- 2) 人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養を身に持っている。

(思考・判断)

- 3) 対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と適確な判断を行えるようにそれぞれの専門領域において、必要な行動を示すことができる。
- 4) 国際的視野に立ち、論理的な思考ができ、疑問を解決する行動をとることができる。

(興味・関心)

-
- 5) 科学の進歩および社会の医療ニーズの変化に対応し、生涯を通して自らを高めることができる。

(態度)

- 6) 患者および地域住民の健康の維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任をもった行動をとることができる。

(技能・表現)

- 7) 専門的な技能を、患者もしくは医療従事者に対して適確かつ安全に適用、提供することができる。
- 8) 患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができる。
-

2-2) 学科ディプロマ・ポリシー

医療科学部の各学科においてもディプロマ・ポリシーを設定し、教育の質保証に努めている。医療科学部の医療検査学科のディプロマ・ポリシーを表2-2、放射線学科を表2-3に示す。

表2-2. 医療検査学科ディプロマ・ポリシー

藤田医科大学医療科学部のディプロマ・ポリシーに基づき、医療検査学科に4年以上在学し、授業科目より卒業要件を満たす単位を修得したうえ、卒業試験を合格した学生に『学士（医療検査学）』の学位を授与します。

卒業試験は下記の能力が身についていることを総合的に判断するものです。よって、医療検査学科を卒業し、学位を授与された学生は以下の能力を修得していることになります。

- 1) 幅広い教養を身に付け、臨床検査を実践するために必要な知識と技能を有する。
 - 2) 生命の尊さを深く認識し、医療人として高い倫理感と強い責任感を有し、謙虚で誠実に医療を実践することができる。
 - 3) 医療職種の専門性および役割を理解し、チーム医療の一員としての自覚を有し、患者中心の専門職連携を実践することができる。
 - 4) 地域医療の重要性を理解し、医学・臨床検査学を通じて地域社会と連携した医療・福祉を実践し、地域社会に貢献することができる。
 - 5) 常に進歩し続ける医学・臨床検査に关心を有し、生涯にわたり自ら成長することができる。
 - 6) 研究的探究心を失うことなく、常に向上心をもち、国際的視野を持ってグローバルに活躍する意志と積極性を有する。
 - 7) 科学的根拠に基づき、様々な医学・臨床検査学に関する問題や課題の解決に向けた思考や判断能力を有する。
-

表2-3. 放射線学科ディプロマ・ポリシー

藤田医科大学医療科学部のディプロマ・ポリシーに基づき、放射線学科に4年以上在学し、卒業要件を満たした学生に『学士（診療放射線技術学）』の学位を授与します。

放射線学科を卒業し、学位を授与された学生は以下の能力を修得していることになります。

- 1) 医療専門職に相応しい倫理観や他者を思いやる心遣いや礼節を身につけている。
 - 2) チーム医療の一員として他の医療専門職と協働して医療を担う責任感と協調性、優れたコミュニケーション能力を有する。
 - 3) 診療放射線技師が担う診療画像検査業務および画像診断支援業務、放射線治療支援業務、放射線管理業務に幅広く対応できる高度な知識と技術を有する。
 - 4) 診療放射線技術学に関する論理的な課題解決思考をもち、卓越した専門性を發揮して放射線関連業務に携わることができる。
 - 5) 医療科学における真理の探究心と創造力を兼ね備え、診療放射線技術学に関する国際的視野を有する。
-

3. 学部ディプロマ・ポリシーの到達度

3-1) アンケート調査方法

医療科学部の2023年度卒業生を対象として、医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度を、卒業生の就職先施設の管理者に評価して頂くアンケート調査を実施した。アンケート調査法はWeb回答方式(Googleフォームを利用)とし、医療科学部ディプロマ・ポリシーの各項目(計8項目)を設問として、それに対する就業者(2023年度本学部卒業生)全体としての到達度を6段階で評価して頂いた。すなわち1施設あたり1評価結果であり、複数の卒業生が就業した施設では、各設問は複数人の平均評価として回答頂くように説明した。

アンケート調査の期間は、8月第1週に調査対象となる就職先施設へ調査依頼状(「7.参考資料」を参照)を郵送し、9月末までにアンケートへのWeb回答を依頼した。なお、本学関連病院には、IR分室員経由にて直接依頼した。

アンケート調査の対象施設を表3-1に示す。

アンケート調査項目(医療科学部ディプロマ・ポリシー)を表3-2、達成度の6段階の評定尺度を表3-3に示す。

表3-1. 就職先施設管理者へのアンケート調査の実施方法

医療検査学科	調査施設：59施設(第1・4教育病院含む) 郵送により調査依頼する施設：56施設 第1×2(検査・臨工)・4教育病院(3部)は直接依頼
放射線学科	調査施設：42施設(第1・2・4教育病院含む) 郵送により調査依頼する施設：39施設 第1・2・4教育病院(3部)は直接依頼

表3－2. アンケート調査の設問項目（医療科学部ディプロマ・ポリシー）

DP 1 (専門知識)	医療人としての専門分野の学習内容について知識が修得できていますか？
DP 2 (倫理教養)	人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養が身についていますか？
DP 3 (科学行動)	対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と的確な判断を行えるようにそれぞれの専門領域において、必要な行動を示すことができるようになっていますか？
DP 4 (国際解決)	国際的な視野に立ち、倫理的な思考ができ、疑問を解決する行動をとることができますか？
DP 5 (生涯学習)	科学の進歩および社会の医療ニーズの変化に対応し、生涯を通して自らを高めることができますか？
DP 6 (責任行動)	患者および住民の健康維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任をもった行動をとることができますか？
DP 7 (専門技能)	専門的な技能を、患者もしくは医療従事者に対して的確かつ安全に適用することができますか？
DP 8 (コミュニケーション)	患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができますか？

表3－3. アンケート調査に用いた到達度の評定尺度（6段階）

-
- 6：完全に修得できている
 - 5：概ね修得できている
 - 4：最低水準は修得できている
 - 3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない
 - 2：十分に修得できていない
 - 1：全く修得できていない
-

3-2) 調査概要、調査結果および到達度の分析

2023 年度医療科学部卒業生を対象とした医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、アンケート調査票の回収状況を表 3-4 に示す。

表 3-4. アンケート調査票の回収状況（学部ディプロマ・ポリシー）

卒業生の学科	対象施設	回答施設	回収率	退職理由 の未回答
医療検査学科	59	41	69.5%	0
放射線学科	42	25	59.5%	0
合計	101	66	65.3%	0

アンケート調査の回答の度数分布を表 3-5 に示す。

学部全体としての各設問に対する評定尺度毎の回答結果のヒストグラムを図 3-1 に示す。

各設問に対する回答の割合を図 3-2 に示す。

表3-5. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価アンケート結果 度数分布

DP1 (専門知識)		DP2 (倫理教養)					
	学部	検査	放射		学部	検査	放射
6	8	5	3	6	7	3	4
5	19	11	8	5	18	10	8
4	27	16	11	4	25	16	9
3	11	8	3	3	12	9	3
2	1	1	0	2	3	2	1
1	0	0	0	1	1	1	0
n	66	41	25	n	66	41	25

DP3 (科学行動)		DP4 (国際解決)					
	学部	検査	放射		学部	検査	放射
6	4	2	2	6	3	2	1
5	21	12	9	5	11	5	6
4	23	17	6	4	23	16	7
3	15	8	7	3	23	16	7
2	3	2	1	2	6	2	4
1	0	0	0	1	0	0	0
n	66	41	25	n	66	41	25

DP5 (生涯学習)		DP6 (責任行動)					
	学部	検査	放射		学部	検査	放射
6	5	4	1	6	9	6	3
5	21	8	13	5	22	12	10
4	20	16	4	4	26	15	11
3	16	11	5	3	8	7	1
2	4	2	2	2	0	0	0
1	0	0	0	1	1	1	0
n	66	41	25	n	66	41	25

DP7 (専門技能)		DP8 (コミュニケーション)					
	学部	検査	放射		学部	検査	放射
6	8	4	4	6	8	4	4
5	17	8	9	5	26	15	11
4	29	21	8	4	15	10	5
3	7	5	2	3	13	9	4
2	4	2	2	2	3	2	1
1	1	1	0	1	1	1	0
n	66	41	25	n	66	41	25

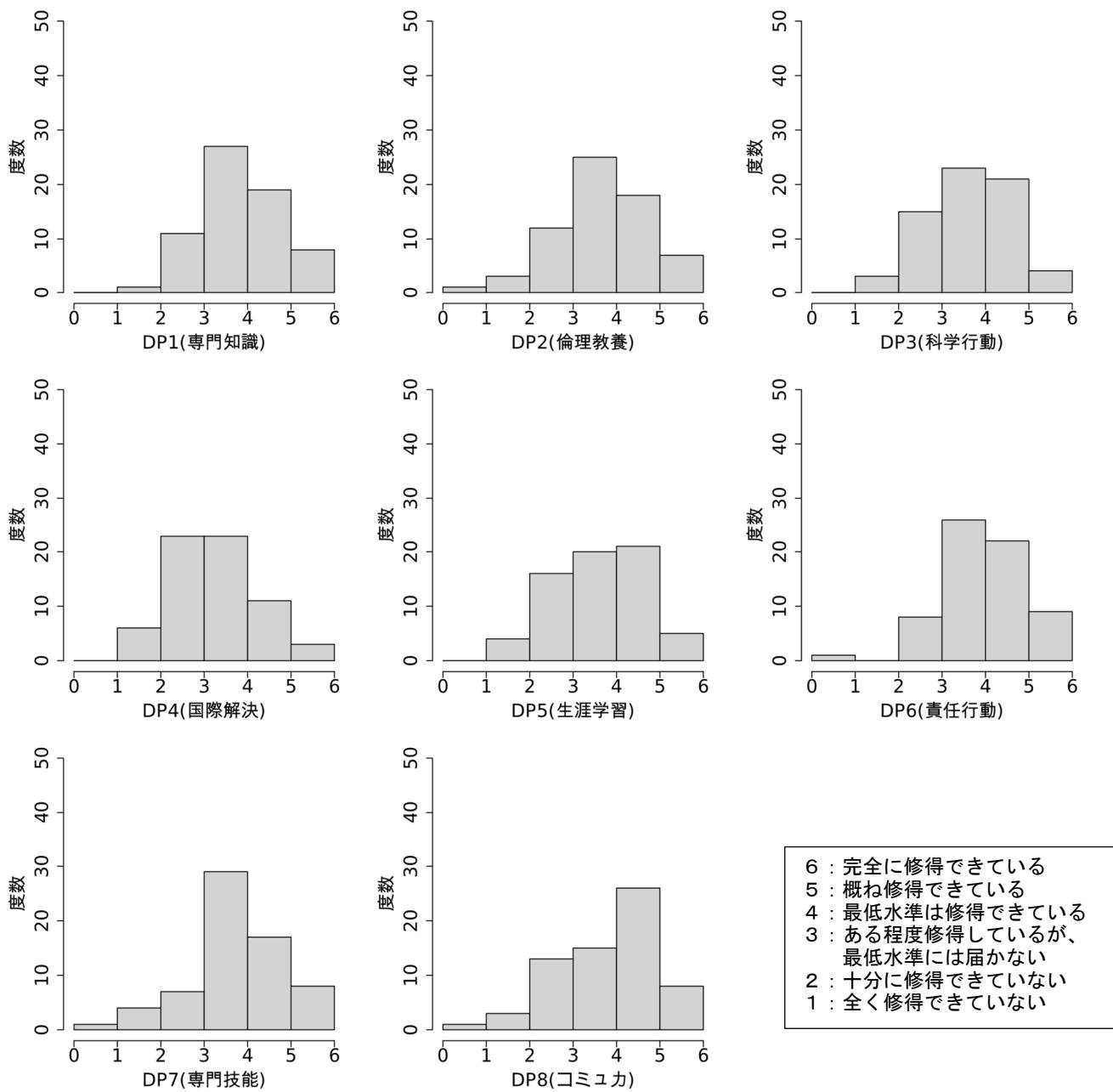


図3-1. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 学部全体の回答分布

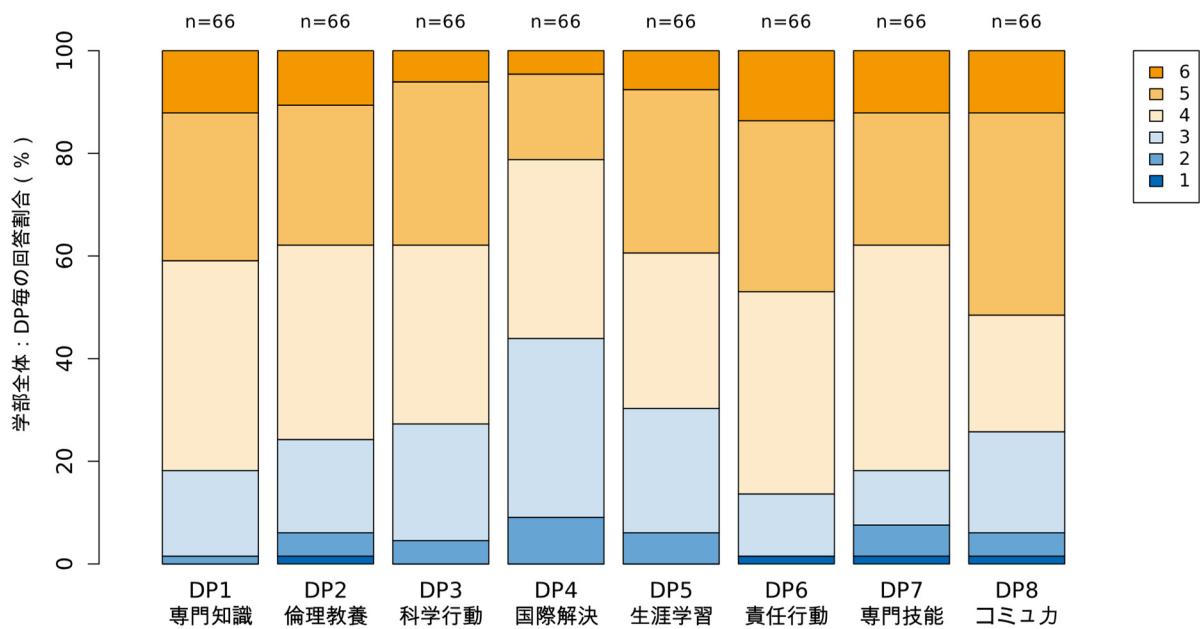


図3－2. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 設問毎の回答割合

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較した。回答結果について、学部全体および学科ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表3－6に示す。

DP1～DP8について、学部全体の回答の平均値をレーダーチャートとして図3－3に示す。DP1～DP8は、医療科学部IR分室より2024年6月20日に報告された「2024年度医療科学部IR報告書—2023年度卒業生を対象としたディプロマ・ポリシー到達度調査（学生自己評価）—」（以下、学生自己評価調査）における学生の自己評価による学部ディプロマ・ポリシーのアンケート調査の設問と同様である。そこで、学生自己評価調査の「表3－4. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 基本統計量」より得た各設問の学部全体の平均値を合わせて図3－3に示す。

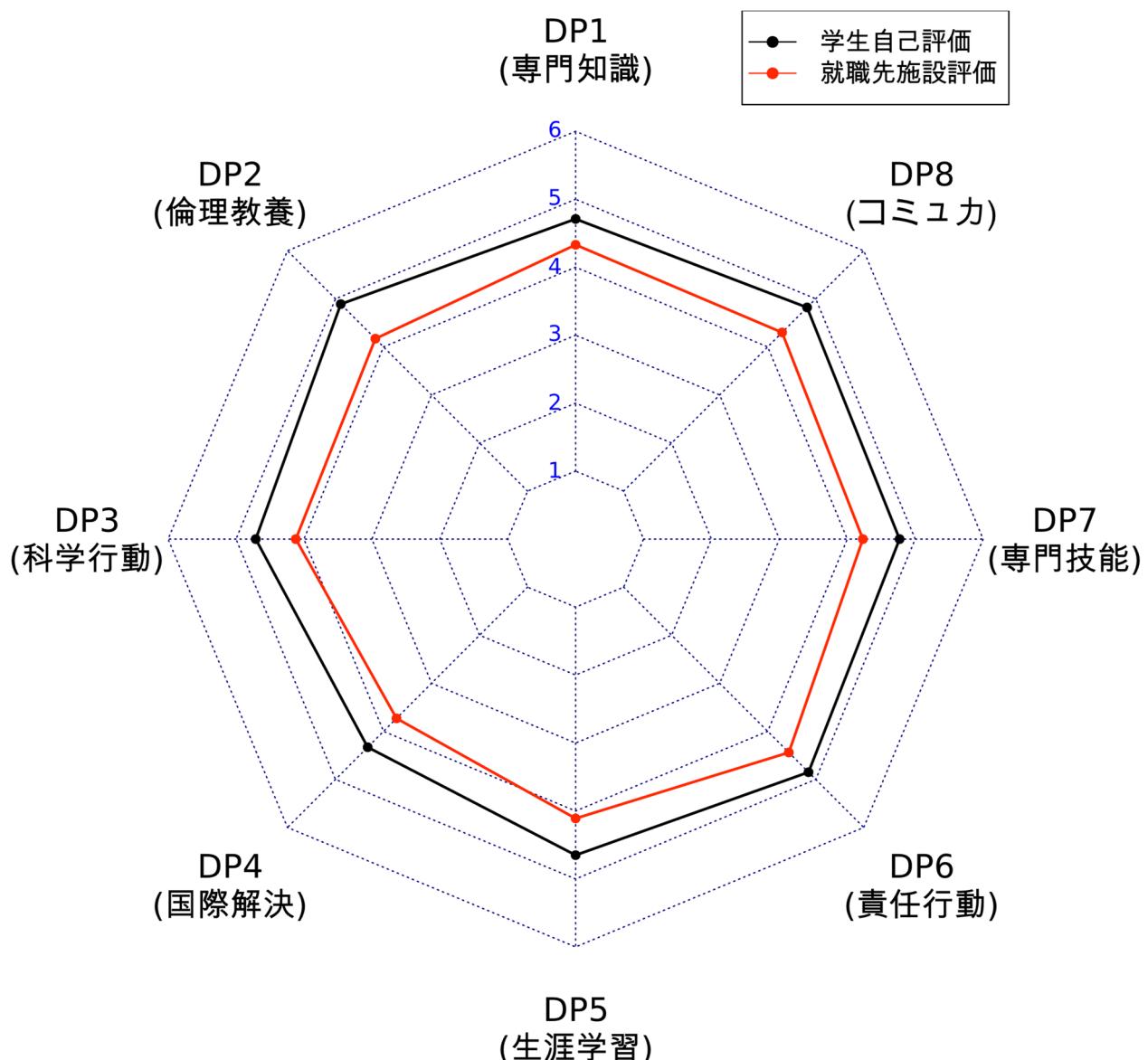
表3－6. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 基本統計量

DP1 (専門知識)				DP2 (倫理教養)			
学部	検査	放射	n	学部	検査	放射	n
平均値	4.33	4.27	4.44	平均値	4.17	4.00	4.44
標準偏差	0.94	0.99	0.85	標準偏差	1.08	1.08	1.02
中央値	4	4	4	中央値	4	4	4
最大値	6	6	6	最大値	6	6	6
最小値	2	2	3	最小値	1	1	2
n	66	41	25	n	66	41	25

DP3 (科学行動)				DP4 (国際解決)			
学部	検査	放射	n	学部	検査	放射	n
平均値	4.12	4.10	4.16	平均値	3.73	3.73	3.72
標準偏差	0.98	0.93	1.05	標準偏差	0.99	0.91	1.11
中央値	4	4	4	中央値	4	4	4
最大値	6	6	6	最大値	6	6	6
最小値	2	2	2	最小値	2	2	2
n	66	41	25	n	66	41	25

DP5 (生涯学習)				DP6 (責任行動)			
学部	検査	放射	n	学部	検査	放射	n
平均値	4.11	4.02	4.24	平均値	4.44	4.34	4.60
標準偏差	1.05	1.02	1.07	標準偏差	0.97	1.07	0.75
中央値	4	4	5	中央値	4	4	5
最大値	6	6	6	最大値	6	6	6
最小値	2	2	2	最小値	1	1	3
n	66	41	25	n	66	41	25

DP7 (専門技能)				DP8 (コミュニケーション)			
学部	検査	放射	n	学部	検査	放射	n
平均値	4.23	4.10	4.44	平均値	4.30	4.17	4.52
標準偏差	1.08	1.05	1.10	標準偏差	1.14	1.17	1.06
中央値	4	4	5	中央値	5	4	5
最大値	6	6	6	最大値	6	6	6
最小値	1	1	2	最小値	1	1	2
n	66	41	25	n	66	41	25



医療科学部	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
就職先施設評価 a	4.33	4.17	4.12	3.73	4.11	4.44	4.23	4.30
学生自己評価 b	4.71	4.89	4.71	4.33	4.65	4.85	4.77	4.82
差 a-b	-0.38	-0.72	-0.59	-0.60	-0.55	-0.41	-0.55	-0.52

図3-3. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 評定値の平均値

3-2-1) 学部全体としての分析

医療科学部の2023年度卒業生を対象とした、医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価の平均値は8項目で大きな差はなく（全回答平均値 4.17 ± 1.05 ；2023年度調査： 4.32 ± 0.94 ）、最も評価が高かったのは「DP6：責任行動」の 4.44 ± 0.97 （2023年度調査：「DP8：コミュ力」 4.65 ± 0.95 ）であり、最も評価が低かった項目は「DP4：国際解決」の 3.73 ± 0.99 （2023年度調査：「DP4：国際解決」 3.78 ± 0.92 ）であった（表3-6）。高評価のDPは昨年度と異なったが「DP1：専門知識」「DP8：コミュ力」との差は小さく、低評価のDPは2023年度調査と同様であり、概ね例年と大きく異なる結果であったと考える。また、各設問の中央値はすべて「4：最低水準は修得できている」以上であり、「DP8：コミュ力」では中央値が「5：概ね修得できている」となった。昨年度は「DP6：責任行動」「DP8：コミュ力」の中央値が「5：概ね修得できている」であり、大きな変化はなかった。

「4：最低水準は修得できている」以上と評価した施設の割合が最も多かったのは「DP6：責任行動」の86.4%（57/66件）であり、次いで「DP1：専門知識」と「DP7：専門技能」が81.8%（54/66件）、「DP2：倫理共用」75.8%（50/66件）および「DP8：コミュ力」74.2%（49/66件）であった（図3-2および表3-5）。一方、「DP4：国際解決」は、他の設問と比べ「3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない」より低い評価が43.9%（29/66件）と他の設問に比べ多かった。

学生自己評価調査と今回の就職先施設管理者による評価結果を比較すると、DP1～DP8の全てにおいて就職先管理者による評価は学生の自己評価に比べて-0.38～-0.72（平均-0.54）低い傾向を示した。2023年度調査においても同様の傾向を示しており、就職先管理者の評価基準は厳しく設定されている（逆に言えば、学生の評価基準が甘い）ことが推察される。しかし、1点以上の差は無いことから、学生自己評価と就職先管理者による評価に大きな差異はないと考える（図3-3）。

また、今年度調査では評価協力施設に対し、「2：十分に修得できていない」以下の回答をした場合にその理由を自由回答するよう設定した。平均的に低評価であった「DP4：国際解決」については「日常臨床業務の修得で手いっぱい、まだ入職者に対応を求める状況にない」とのコメントが3件あった。そもそも評価することが困難な設問に対して「3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない」以上の選択はできず、結果として「2：十分に修得できていない」を選択していることが推察された。就職先施設管理者の評価基準が厳しい面があることに加え、評価することが困難との判断からも「DP4：国際解決」において低い評価が出ていると考えられる。一方、平均的に高評価であったDPについて低評価を付けた施設からは、「DP8：コミュ力」について「報連相や礼儀など社会人として相応しいコミュニケーションができていない」とのコメントが3件、「DP7：専門技能」について「自信のなさからか消極的」とのコメントが1件あった。

3-2-2) 学科間の比較

医療科学部ディプロマ・ポリシーの8項目の設問について、回答された評定値の学科毎の分布を箱ひげ図で比較したグラフを図3-4に示す。設問ごとに回答された評定値の学科毎の割合を比較するグラフを図3-5に示す。

DP1～DP8 に対する医療検査学科と放射線学科における評価は、ほぼ同様な分布を示した（図3-4）。中央値を比較すると両学科ともに「4：最低水準は修得できている」以上であったが、DP5、DP6、DP7、DP8 については放射線学科の中央値は「5：概ね修得できている」となった。放射線学科よりも医療検査学科の方が若干、低い評価の割合が大きい傾向を示しており（図3-5）、これは2023年度調査とは逆の傾向であった。

全項目に対する「4：最低水準は修得できている」以上の評価の割合は、医療検査学科が72.6%（2023年度調査：85.2%）、放射線学科では78.5%（2023年度調査：77.8%）であった。放射線学科は昨年度と同様な傾向であったが、今年度調査では医療検査学科では「4：最低水準は修得できている」以上の評価の割合が若干減少した。

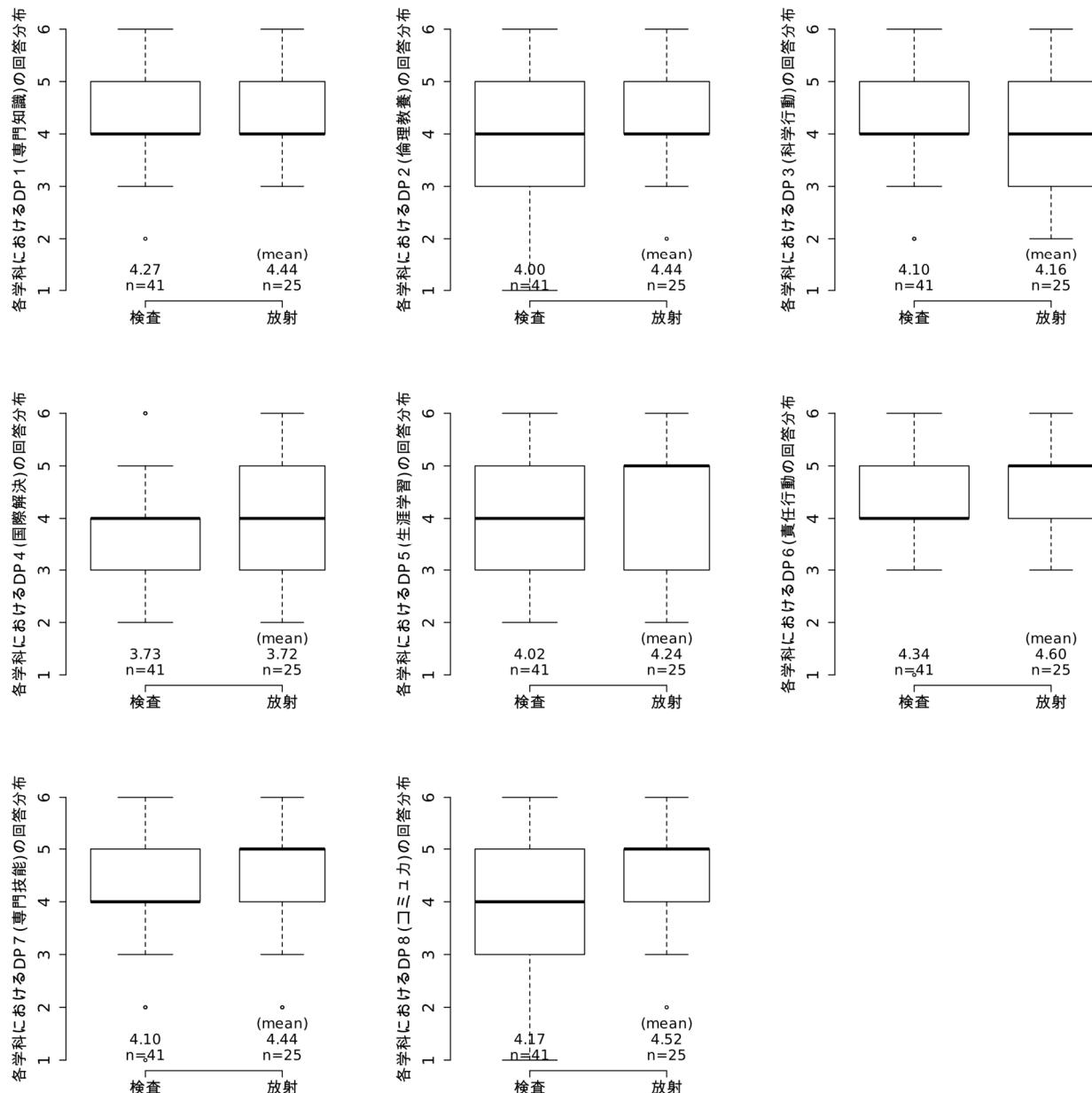


図3-4. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 学科毎の回答分布の比較

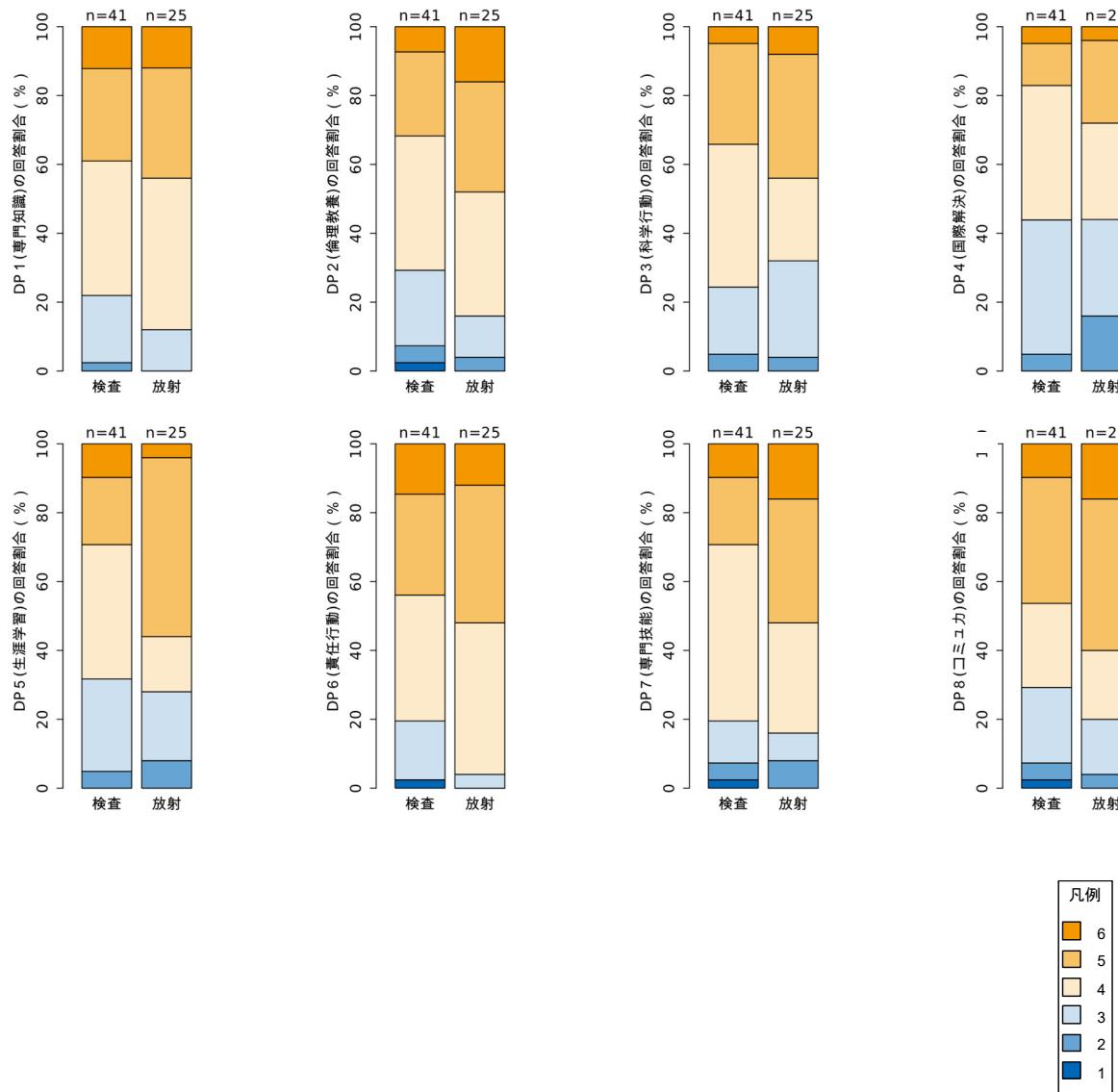


図3-5. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 学科毎の回答割合(%)の比較

3-3) 各学科の調査結果および到達度の分析

医療科学部ディプロマ・ポリシーの8項目について、学科ごとに調査結果の概要と到達度の分析を示す。

3-3-1) 医療検査学科

アンケート調査の設問1～設問8に対する回答結果の分布を箱ひげ図にて図3-6に示す。DP1～DP8について、学部全体の回答の平均値と医療検査学科の回答の平均値、さらに学生自己評価調査における医療検査学科の各設問の回答の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図3-7に示す。

DP1～DP8の全てにおいて、学科の就職先施設評定の平均値は学部全体と同等の値であった。また、すべての設問において、学生の自己評価値は就職先施設評価値より高い傾向を示した。

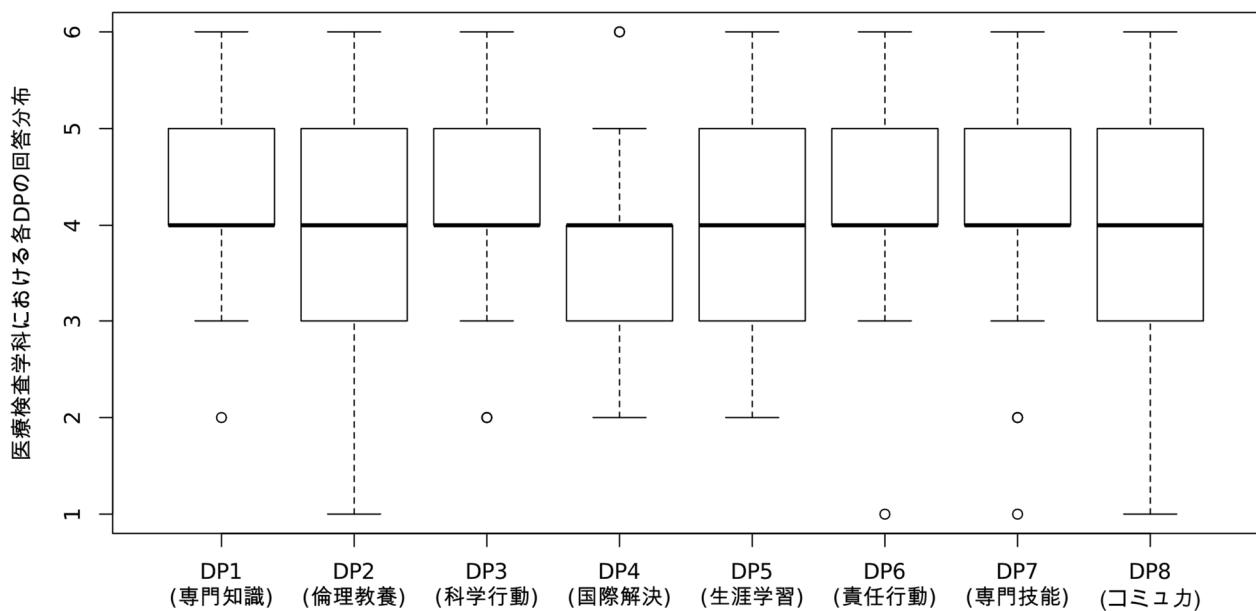


図3-6. 医療検査学科の回答分布

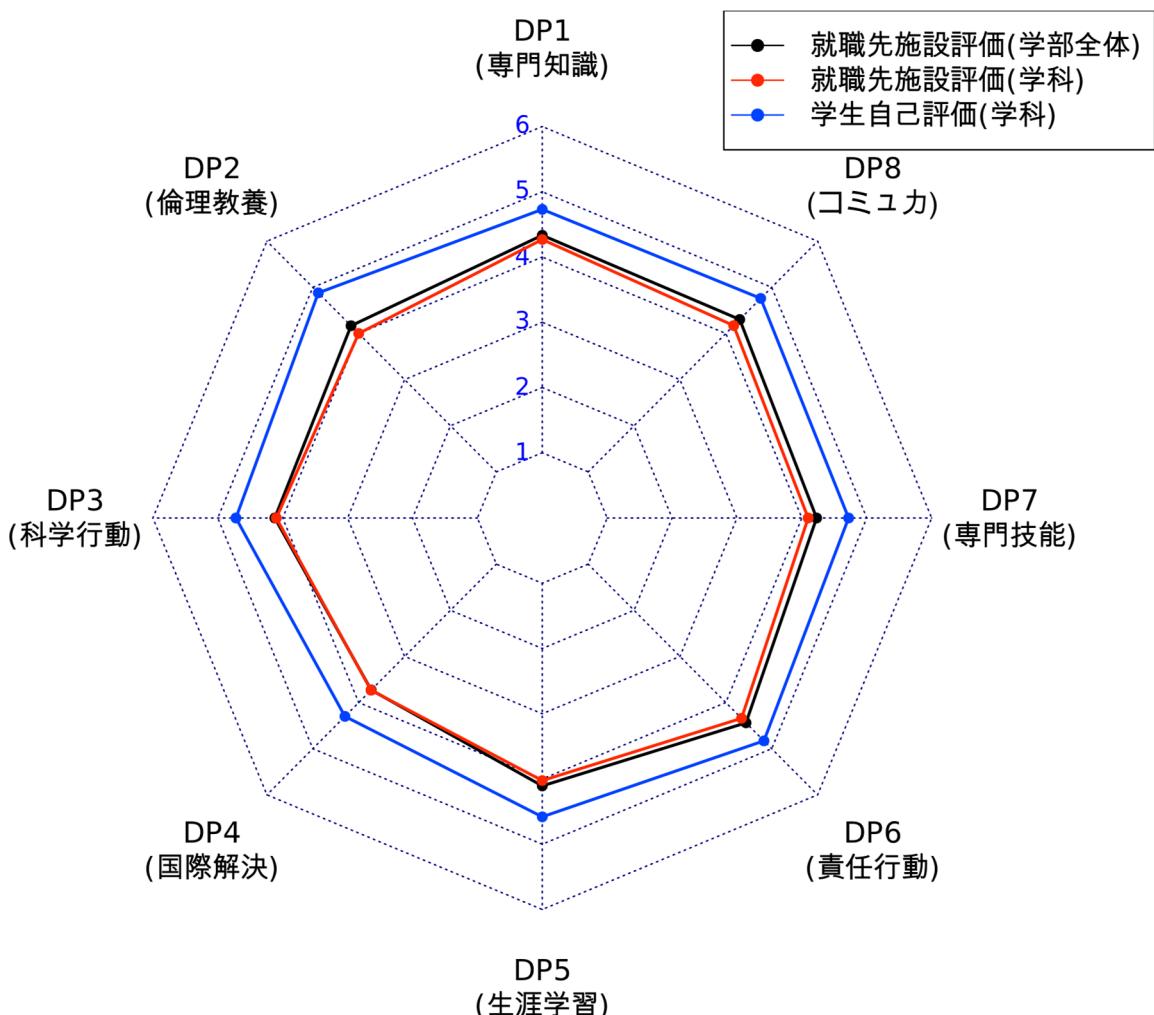


図 3－7. 回答結果の医療検査学科と学部全体との比較（平均値）

3-3-2) 放射線学科

アンケート調査のDP1～DP8に対する回答結果の分布を箱ひげ図にて図3-8に示す。DP1～DP8について、学部全体の回答の平均値と放射線学科の回答の平均値、さらに学生自己評価調査における放射線学科の各設問の回答の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図3-9に示す。

DP1～DP8の全てにおいて、学科の就職先施設評定の平均値は学部全体と同等か、高い値であった。すべての設問において、学生の自己評価値は就職先施設評価値より高い傾向を示した。

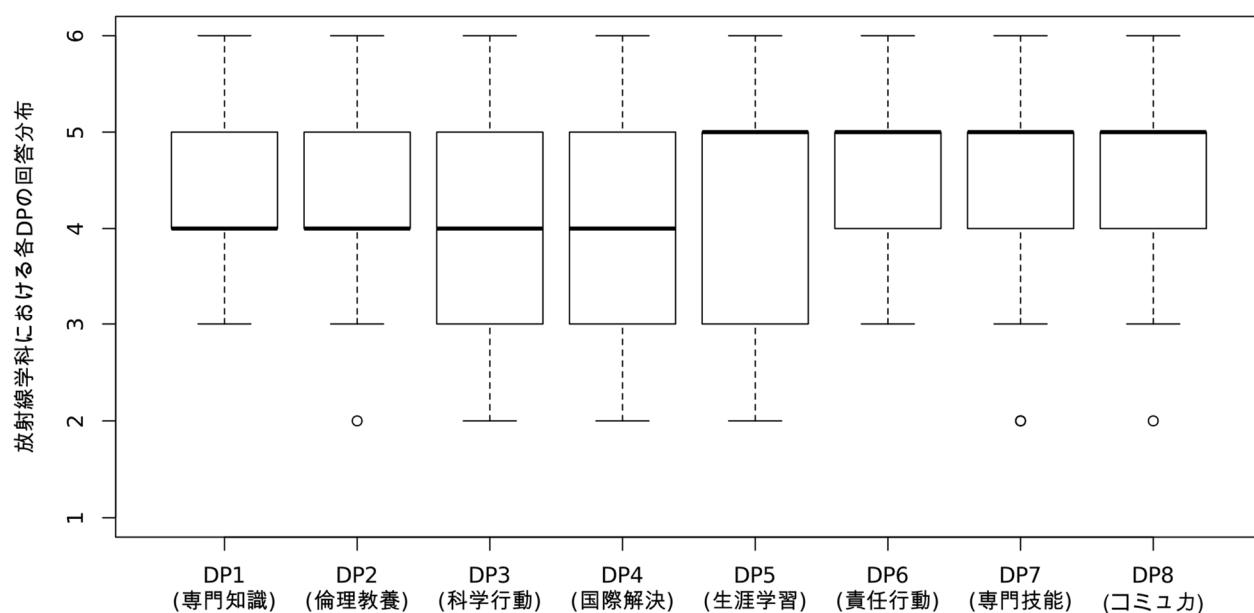
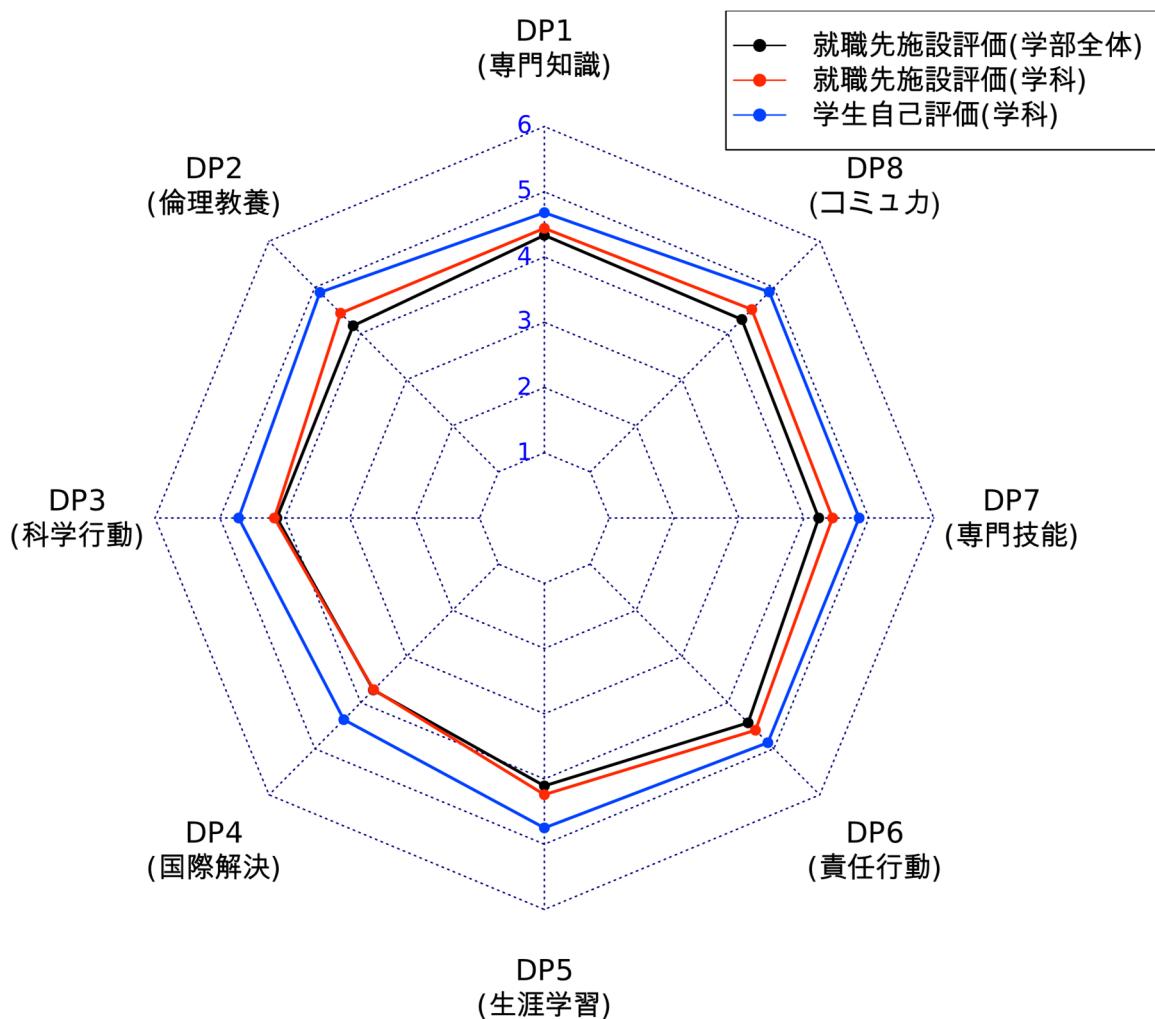


図3-8. 放射線学科の回答分布



放射	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
就職先施設評価 a	4.44	4.44	4.16	3.72	4.24	4.60	4.44	4.52
学生自己評価 b	4.68	4.89	4.71	4.37	4.75	4.87	4.85	4.90
差 a-b	-0.24	-0.45	-0.55	-0.65	-0.51	-0.27	-0.41	-0.38

図 3－9. 回答結果の放射線学科と学部全体との比較（平均値）

4. 学科ディプロマ・ポリシーの到達度

4-1) アンケート調査方法

医療科学部の2023年度卒業生を対象として、各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度を、卒業生の就職先施設の管理者に評価して頂くアンケート調査を実施した。アンケート調査法はマークシート式の調査票へ記入する方式またはWeb回答方式(Googleフォームを利用)のいずれかで、学科ディプロマ・ポリシーの各項目を設問として、それに対する就業者(2023年度本学部卒業生)全体としての到達度を6段階で評価して頂いた。すなわち1施設あたり1評価結果であり、複数の卒業生が就業した施設では、各設問は複数人の平均評価として回答頂くように説明した。

アンケート調査の実施方法(時期、対象等)は、医療科学部ディプロマ・ポリシーの到達度調査と同様である(表3-1)。また、達成度の6段階の評定尺度も同様である(表3-3)。2023年度医療科学部卒業生を対象とした、各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、アンケート調査票の回収状況を表4-1に示す。

表4-1. アンケート調査票の回収状況(各学科ディプロマ・ポリシー)

卒業生の学科	対象施設	回答施設	回収率	退職理由 の未回答
医療検査学科	59	42	71.2%	0
放射線学科	42	25	59.5%	0
合計	101	67	66.3%	0

4-2) 各学科の調査概要、調査結果および到達度の分析

4-2-1) 医療検査学科

アンケート調査項目(医療検査学科ディプロマ・ポリシー)を表4-2に示す。

2023年度医療検査学科卒業生を対象とした医療検査学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、DP1～DP7に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図4-1に示す。各設問に対する回答の割合を図4-2に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表4-3に示す。DP1～DP7について、回答された評定値の平均値および学生自己評価調査における各設問の回答の平均値を合わせてレーダーチャートとして図4-3に示す。

2023年度医療検査学科卒業生の医療検査学科ディプロマ・ポリシーに対する就職先施設管理者による評価平均値4.09であり、昨年度より0.25ポイント低下した。「DP2:倫理責任」の評価の中央値は「5:概ね修得できている」、その他の項目全ての評価の中央値は「4:最低水準は修得できた」であった。上述の結果より、2023年度卒業生は最低限、学科ディプロマ・ポリシーを達成できていることが明らかとなった。評価が高い順に、「DP2:倫理責任」(平均値4.50、中央値5)、「DP1:知識技能」(平均値4.43、中央値4)、「DP5:生涯学習」

(平均値 4.19、中央値 4)、「DP3：チーム医療」(平均値 4.02、中央値 4)、「DP4：チーム医療」(平均値 3.90、中央値 4)、「DP7：判断解決」(平均値 3.86、中央値 4) であり、もっとも評価が低くなったのは「DP6：国際探求」(平均値 3.76、中央値 4) であった。DP6 では「3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない」以下の評価が 45.2% であった。なお、DP1～DP7 の全項目において「1：全く修得できていない」と回答した施設が 1 施設あった。

就職先施設評価値と学生の自己評価値を比較すると、すべての設問で就職先施設評価値のほうが学生の自己評価値より低い傾向にあった。最も差が大きくなったのは「DP7：判断決断」であった。学生自己評価との差が最も小さい項目は「DP1：知識技能」であり、昨年度の「DP2：倫理責任」異なる結果を示した。

表4－2. アンケート調査の設問項目（医療検査学科ディプロマ・ポリシー）

DP1 (知識技能)	幅広い教養を身に付け、臨床検査を実践するために必要な知識と技能が身についていますか？
DP2 (倫理責任)	生命の尊さを深く理解し、医療人として高い倫理観と責任感を有し、謙虚で誠実に医療を実践することができるようになっていますか？
DP3 (チーム医療)	医療職種の専門性および役割を理解し、チーム医療の一員としての自覚を有し、患者中心の専門職連携を実践することができるようになっていますか？
DP4 (地域貢献)	地域医療の重要性を理解し、医学・臨床検査を通じて地域社会と連携した医療・福祉を実践し、地域社会に貢献することができるようになっていますか？
DP5 (生涯学習)	常に進歩し続ける医学・臨床検査に関心を有し、生涯にわたり自ら成長することができるようになっていますか？
DP6 (国際探求)	研究的探究心を失うことなく、常に向上心をもち、グローバルに活躍する意思と積極性が身についていますか？
DP7 (判断解決)	科学的根拠に基づき、様々な医学・臨床検査学に関する問題や課題の解決に向けた思考や判断能力が身についていますか？

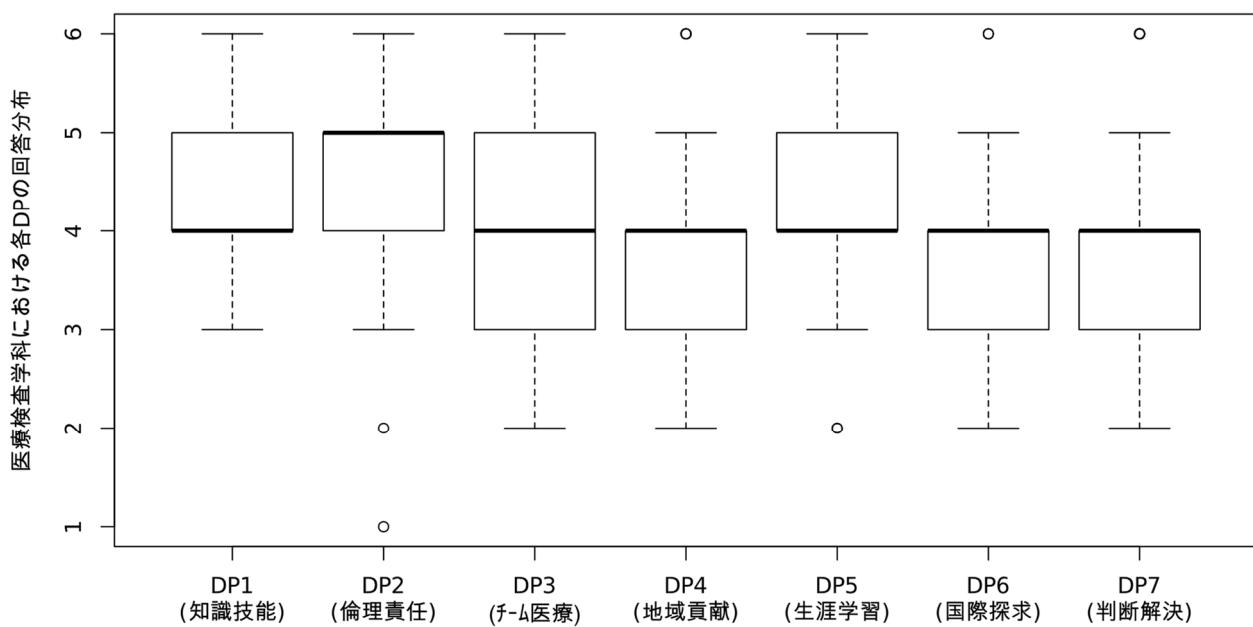


図4-1. 医療検査学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 回答分布

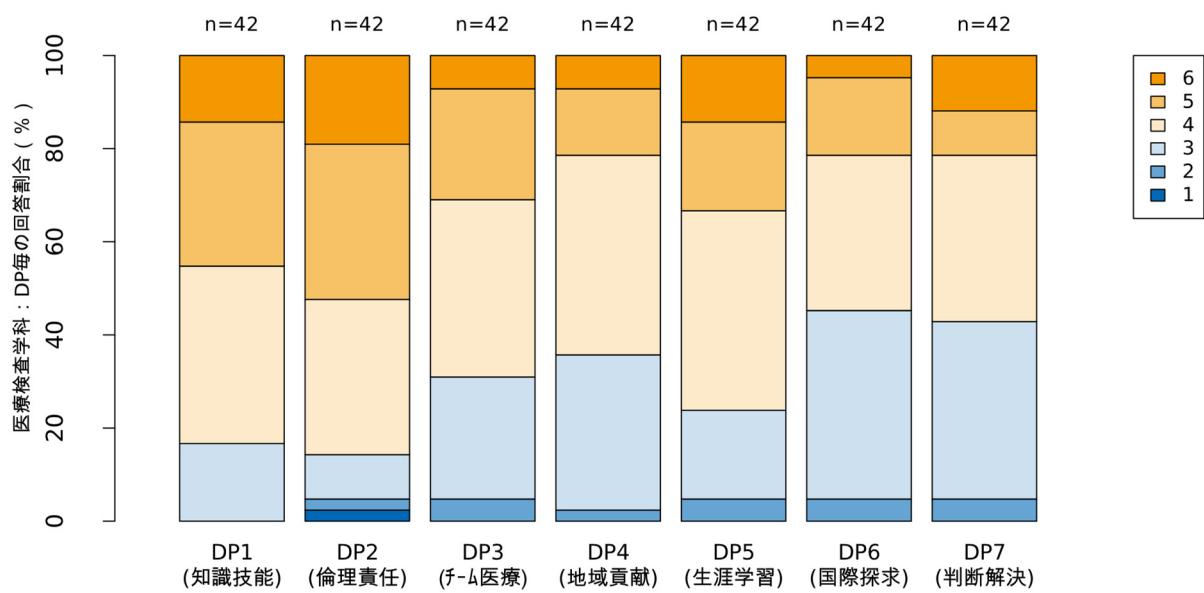
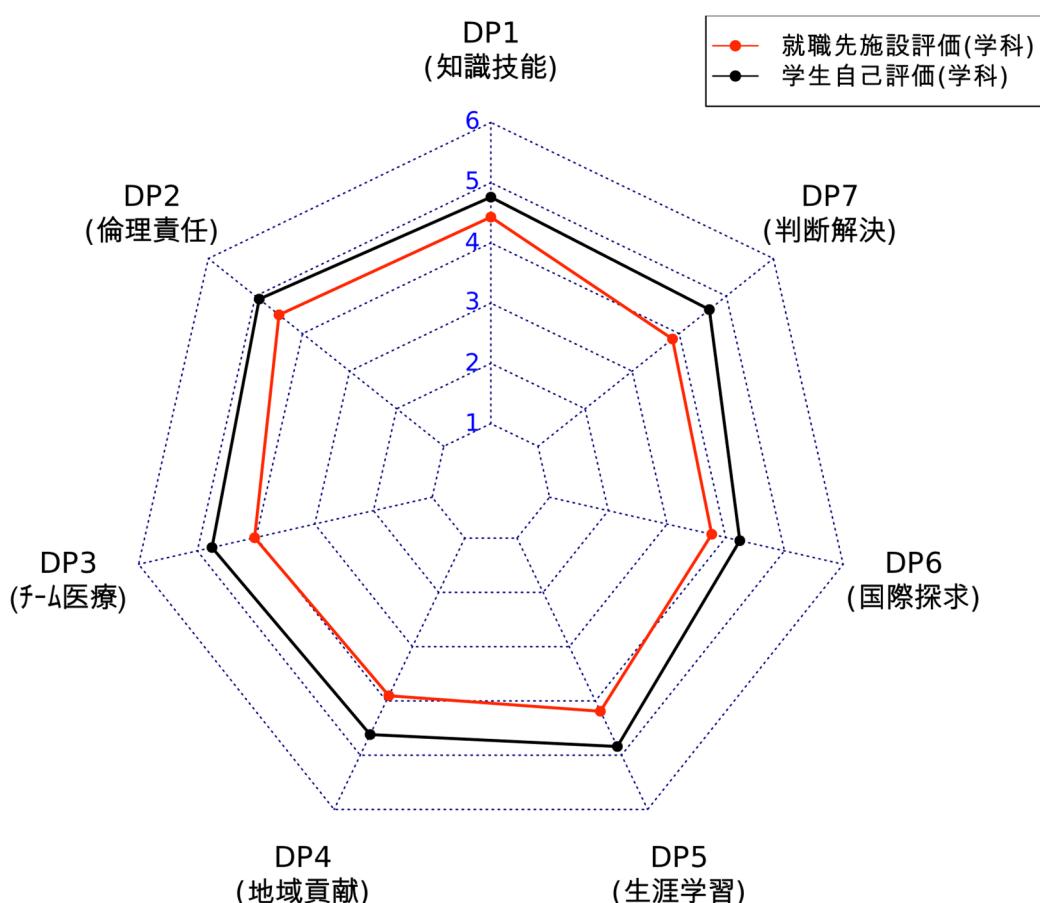


図4-2. 医療検査学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 設問毎の回答割合

表4-3. 医療検査学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 基本統計量

検査	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
平均値	4.43	4.50	4.02	3.90	4.19	3.76	3.86
標準偏差	0.93	1.12	0.99	0.92	1.05	0.95	1.06
中央値	4	5	4	4	4	4	4
最大値	6	6	6	6	6	6	6
最小値	3	1	2	2	2	2	2
n	42	42	42	42	42	42	42



検査	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
就職先施設評価 a	4.43	4.50	4.02	3.90	4.19	3.76	3.86
学生自己評価 b	4.76	4.92	4.75	4.62	4.84	4.24	4.64
差 a-b	-0.34	-0.42	-0.72	-0.72	-0.65	-0.47	-0.78

図4-3. 医療検査学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 評定値の平均値

4-2-2) 放射線学科

アンケート調査項目（放射線学科ディプロマ・ポリシー）を表4-4に示す。

2023年度放射線学科卒業生を対象とした放射線学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、DP1～DP5に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図4-4に示す。各設問に対する回答の割合を図4-5に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表4-5に示す。DP1～DP5について、回答された評定値の平均値および学生自己評価調査における各設問の回答の平均値を合わせてレーダーチャートとして図4-6に示す。

2023年度放射線学科卒業生の放射線学科ディプロマ・ポリシーに対する就職先施設管理者による評価は、「DP1：倫理態度」について中央値が「5：概ね修得できている」、その他の項目については中央値が「4：最低水準は修得できた」を示しており、学科ディプロマ・ポリシーはおおむね最低限達成できている状況と判断できる。評価が高い順に、「DP1：倫理態度」（平均値4.68、中央値5）、「DP2：チーム医療」（平均値4.36、中央値4）、「DP4：課題解決」（平均値4.12、中央値4）、「DP3：知識技能」（平均値4.08、中央値4）であり、もっとも評価が低くなったのは「DP5：国際探求」（平均値3.60、中央値4）であった。「3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない」以下の評価の割合は、DP5で48.0%、DP3で36.0%、DP4で36.00%であった。なお、DP1～DP5の全項目において「1：全く修得できていない」と回答した施設は無かった。

就職先施設評価値と学生の自己評価値を比較すると、すべての設問で就職先施設評価値のほうが低い傾向を示した。その差は「DP1：倫理態度」の-0.34を除き、およそ-0.6点程であり、「DP5：国際探求」が-0.79と最も差が大きかった。

表4-4. アンケート調査の設問項目（放射線学科ディプロマ・ポリシー）

DP 1 (倫理態度)	医療専門職に相応しい倫理観や他者を思いやる心遣い、および洗練された礼節が身についていますか？
DP 2 (チーム医療)	チーム医療の一員として他の医療専門職と協働して医療を担う責任感と協調性、優れたコミュニケーション能力が身についていますか？
DP 3 (知識技能)	診療放射線技師が担う診療画像検査業務および画像診断支援業務、放射線治療支援業務、放射線管理業務に幅広く対応できる高度な知識と技術が身についていますか？
DP 4 (課題解決)	診療放射線技術科学に関する論理的な課題解決思考をもち、卓越した専門性を発揮して放射線関連業務に携わることができるようになりますか？
DP 5 (国際探求)	医療科学における真理の探求心と創造力を兼ね備え、診療放射線技術学に関する国際的視野が身についていますか？

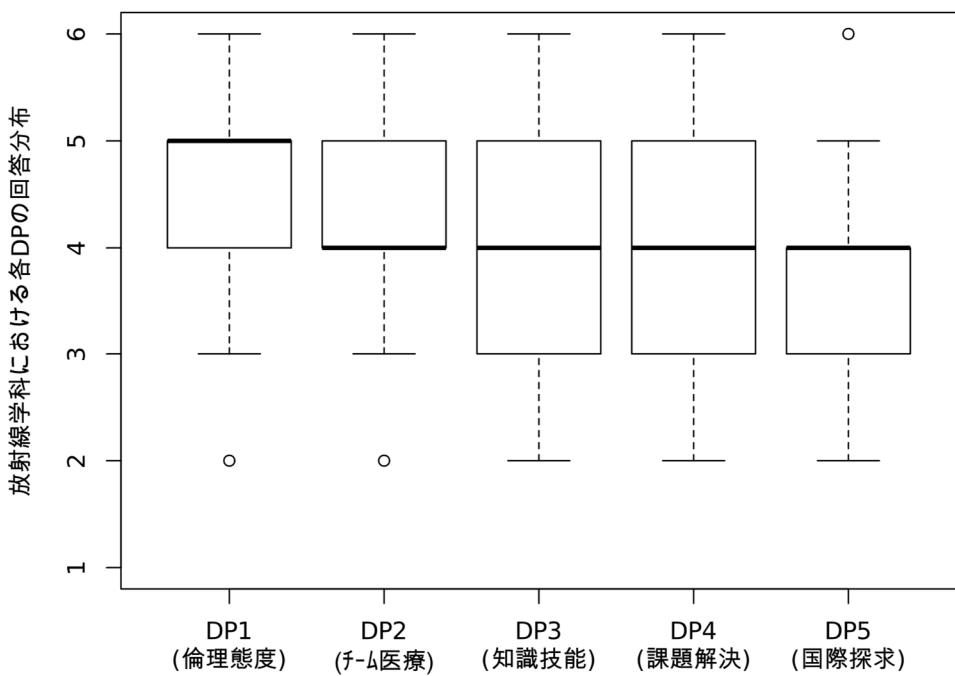


図4-4. 放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 回答分布

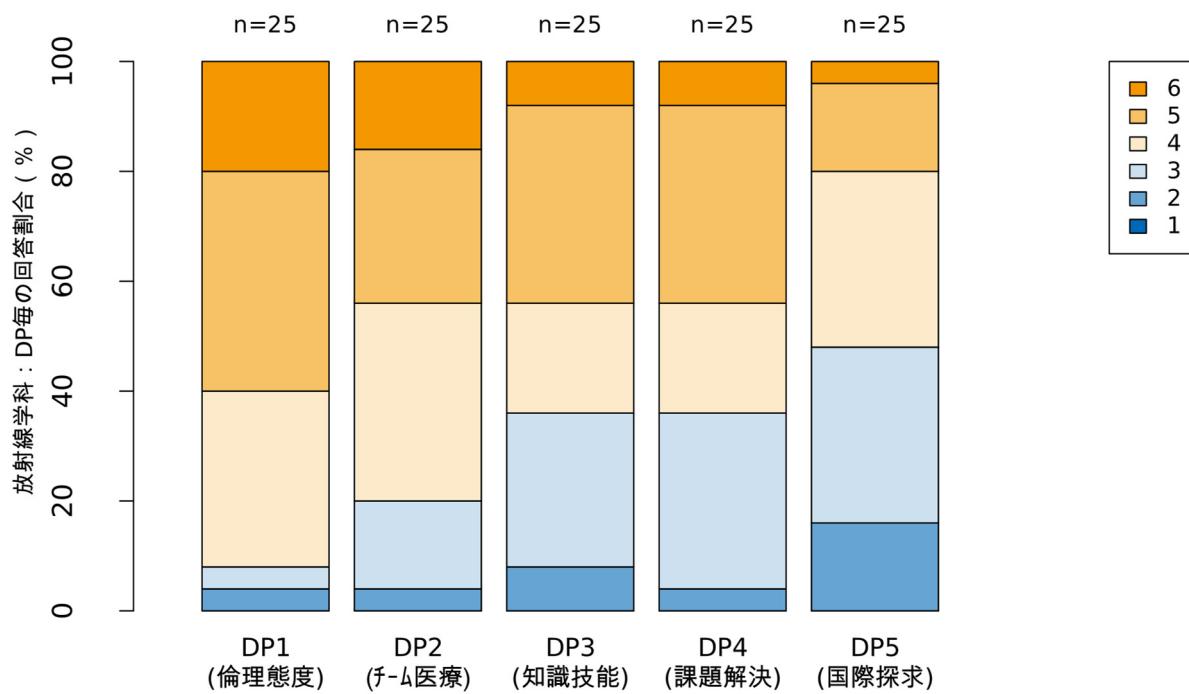
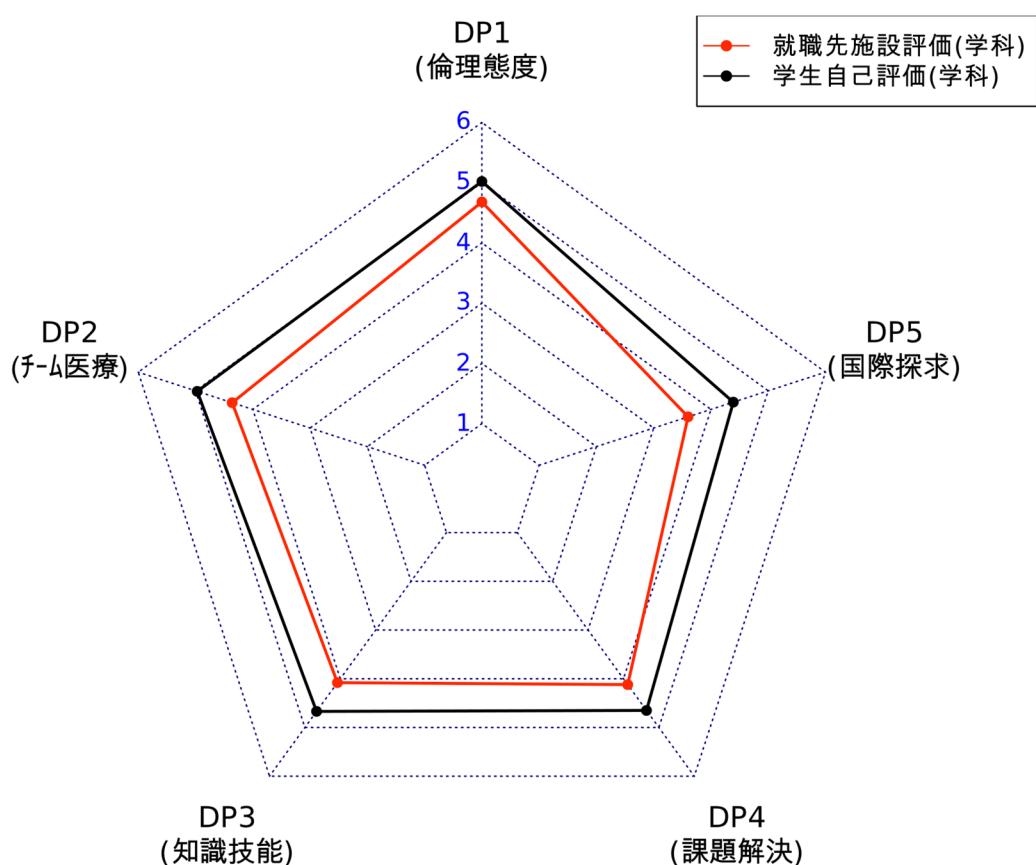


図4-5. 放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 設問毎の回答割合

表4-5. 放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 基本統計量

放射	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
平均値	4.68	4.36	4.08	4.12	3.60
標準偏差	0.97	1.05	1.13	1.07	1.06
中央値	5	4	4	4	4
最大値	6	6	6	6	6
最小値	2	2	2	2	2
n	25	25	25	25	25



放射	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
就職先施設評価 a	4.68	4.36	4.08	4.12	3.60
学生自己評価 b	5.02	4.97	4.67	4.65	4.39
差 a-b	-0.34	-0.61	-0.59	-0.53	-0.79

図4-6. 放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 評定値の平均値

5. 学部ディプロマ・ポリシーの到達度の経年的分析

医療科学部ディプロマ・ポリシーの8項目について、2020年～2024年の5年間の就職先施設管理者評価による到達度調査の結果について、医療科学部全体での就職先施設管理者評価の平均値の推移を図5-1に示す。なお、2020年～2022年は臨床検査学科、臨床工学科および放射線学科の卒業生、2023、2024年は医療検査学科（臨床検査学プログラムおよび臨床工学プログラム含む）および放射線学科の卒業生に対する回答データより就職先施設管理者評価の平均値を求めている。

各DP項目の就職先施設管理者評価の平均値について、各年における平均値はほぼ同じ値を示しており、経的な変化に何らかの傾向は認められなかった。

医療科学部ディプロマ・ポリシーの8項目について、2020年3月～2024年3月の5年間の就職先施設管理者評価による到達度調査の結果について、各年の調査における1～6段階の就職先施設管理者評価の回答の割合の推移を図5-2に示す。なお、2020年～2022年は臨床検査学科、臨床工学科および放射線学科の卒業生、2023、2024年は医療検査学科（臨床検査学プログラムおよび臨床工学プログラム含む）および放射線学科の卒業生に対する回答データより回答の割合を求めている。

図5-1に示すとおり経的に平均値はほぼ変化していないが、図5-2の回答の割合別の経的な推移は、DP1（専門知識）、DP2（倫理教養）では到達度「5：概ね修得できた」が減少し、「3：ある程度修得したが、最低水準には届かない」が若干増加の傾向を示した。DP3（科学行動）、DP4（国際解決）、DP5（生涯学習）、DP8（コミュ力）では到達度「4：最低水準は修得できた」が減少し、「3：ある程度修得したが、最低水準には届かない」が増加する傾向を示した。到達目標に対し最低水準付近に位置する卒業生（評価対象者）への就職先施設評価者の評価基準が経的にシビアになってきている、あるいは卒業生の到達度が経的に低下傾向であることを示すと考えられる。DP6（責任行動）、DP7（専門技能）については、経的にゆらぎが認められるものの、評価の回答割合の変化に顕著な傾向は認められなかった。

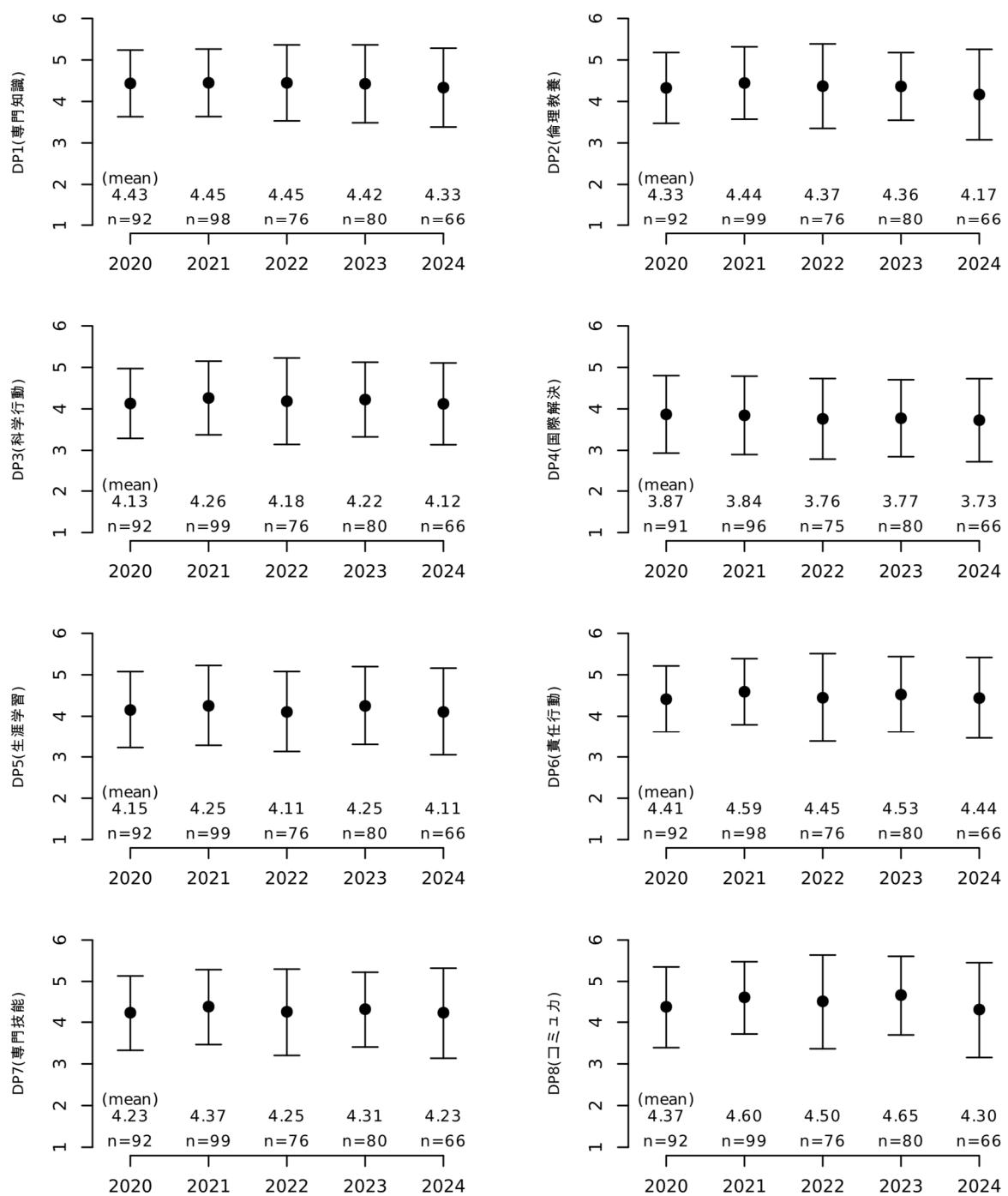


図5-1. 学部ディプロマ・ポリシーの到達度就職先施設管理者評価（平均値）の推移

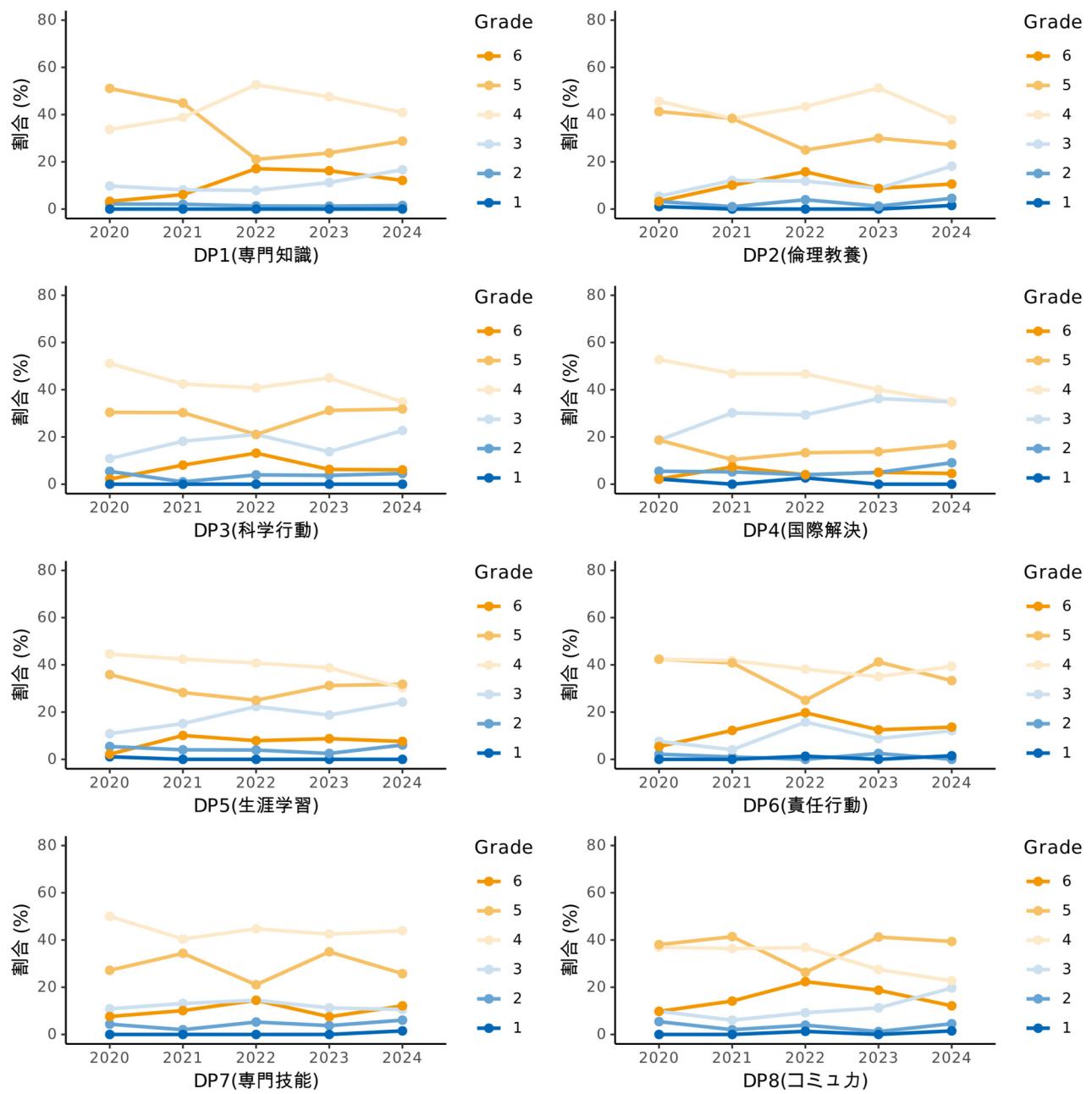


図5-2. 学部ディプロマ・ポリシーの到達度就職先施設管理者評価（回答割合）の推移

6. 学科ディプロマ・ポリシーの到達度の経年的分析

6-1) 医療検査学科

医療検査学科ディプロマ・ポリシーの7項目について、2020年3月～2024年3月の5年間の就職先管理者評価による到達度調査の結果について、就職先管理者評価の平均値の推移を図6-1に示す。なお、2020年～2022年は臨床検査学科の卒業生、2023、2024年は医療検査学科（臨床検査学プログラムおよび臨床工学プログラム含む）の卒業生に対する回答データより就職先管理者評価の平均値を求めている。

各DP項目の就職先管理者評価の平均値について、各年における平均値はほぼ同じ値を示しており、経年的な変化に何らかの傾向は認められなかった。

医療検査学科ディプロマ・ポリシーの7項目について、2020年3月～2024年3月の5年間の就職先管理者評価による到達度調査の結果について、各年の調査における1～6段階の就職先管理者評価の回答の割合の推移を図6-2に示す。なお、2020年～2022年は臨床検査学科の卒業生、2023、2024年は医療検査学科（臨床検査学プログラムおよび臨床工学プログラム含む）の卒業生に対する回答データより回答の割合を求めている。

各DPについて、多少の上下はあるが「2：十分に修得できていない」以下の評価の割合は横ばいだった。「3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない」はDP1（知識技能）、DP3（チーム医療）、DP4（地域貢献）、DP6（国際探求）、DP7（判断解決）で増加傾向が認められた。「4：最低水準は修得できた」はやや低下、「5：概ね修得できた」は項目によってやや増加あるいはやや減少、「6：完全に修得できた」はわずかに低下を示した。昨年度と比較して、全体的に基準に届かない学生が増加している傾向がみられ、各能力の低下を読み取ることができる。

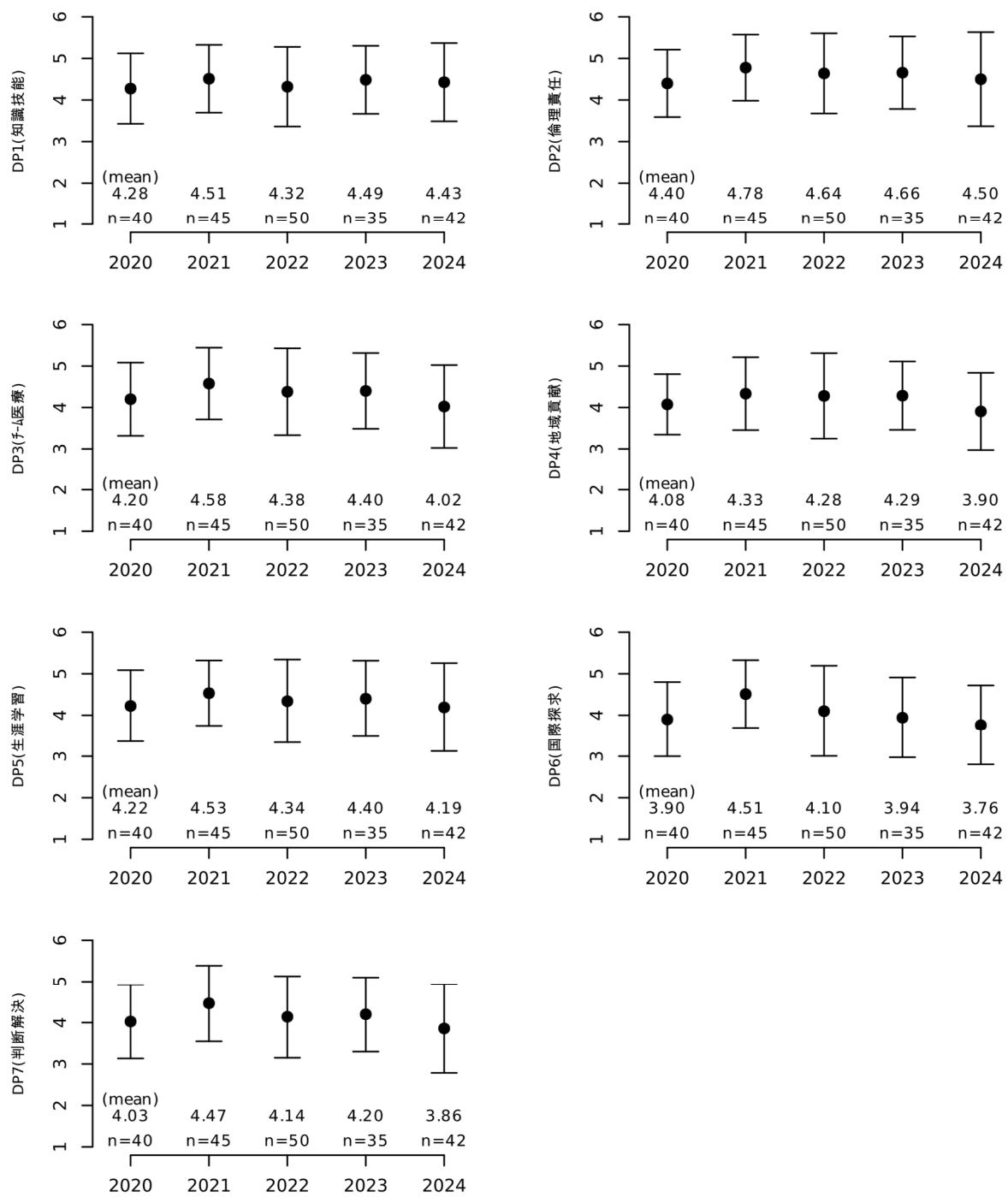


図6-1. 医療検査学科ディプロマ・ポリシーの到達度就職先施設管理者評価（平均値）の推移

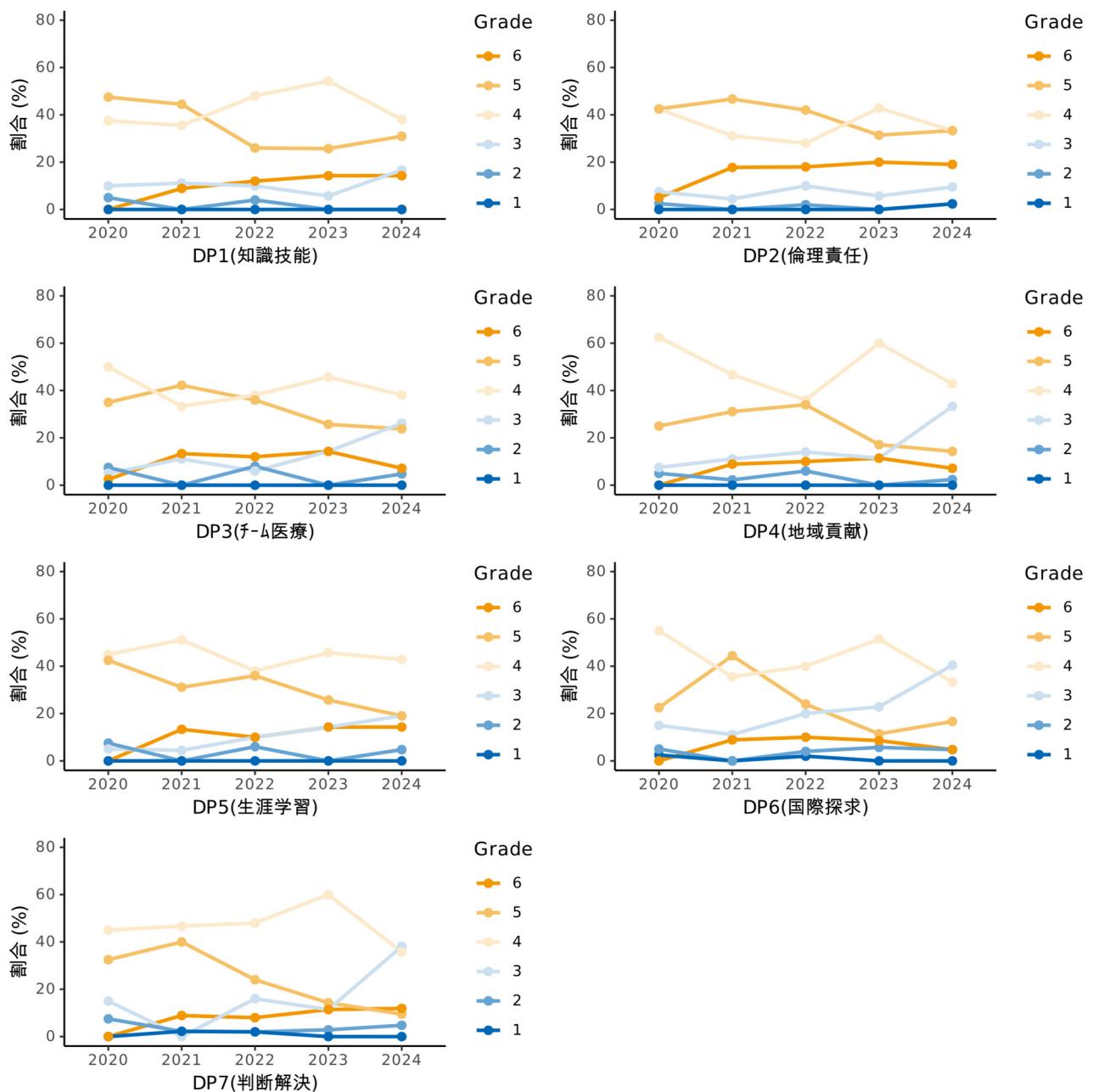


図6-2. 医療検査学科ディプロマ・ポリシーの到達度就職先施設管理者評価（回答割合）の推移

6-2) 放射線学科

放射線学科ディプロマ・ポリシーの5項目について、2020年3月～2024年3月の5年間の就職先管理者評価による到達度調査の結果について、就職先管理者評価の平均値の推移を図6-3に示す。

各DP項目の就職先管理者評価の平均値について、各年における平均値はほぼ同じ値を示しており、経年的な変化に何らかの傾向は認められなかった。

放射線学科ディプロマ・ポリシーの5項目について、2020年3月～2024年3月の5年間の就職先管理者評価による到達度調査の結果について、各年の調査における1～6段階の就職先管理者評価の回答の割合の推移を図6-4に示す。

2024年度はDP1（倫理態度）～DP4（問題解決）の項目について、図6-4に示すとおり「6：完全に修得できた」と「5：概ね修得できている」が増加傾向にみられた。「1：全く修得できていない」と「2：十分に修得できていない」は低値で横ばい状態であった。DP5（国際探求）は「2：十分に修得できていない」と「3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない」が増加、「4：最低水準は修得できている」が低下の傾向がみられた。

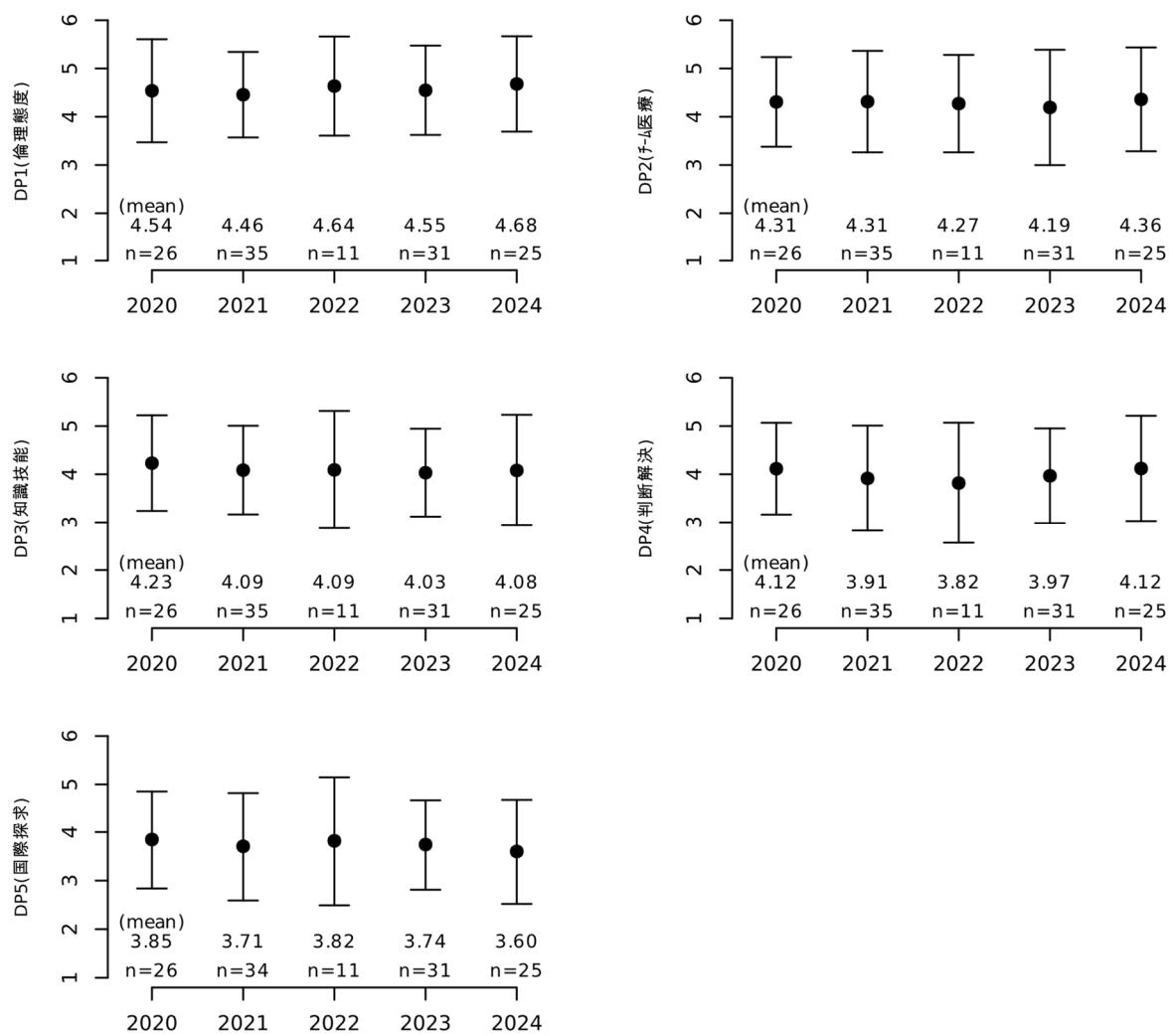


図6-3. 放射線学科ディプロマ・ポリシーの到達度就職先施設管理者評価（平均値）の推移

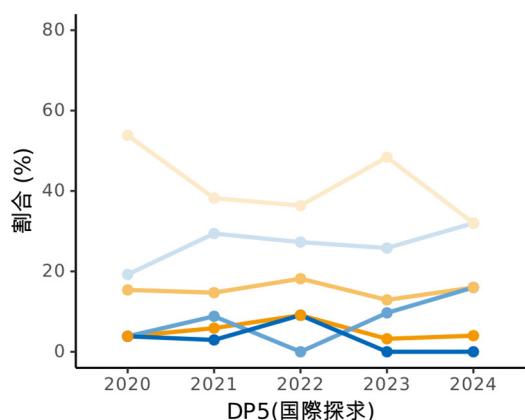
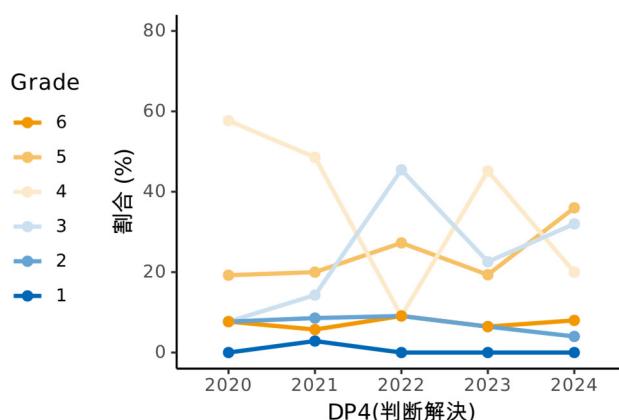
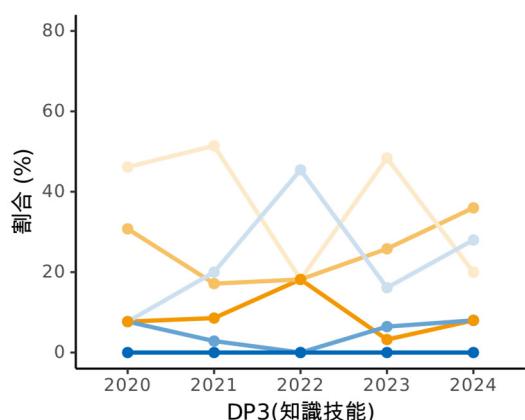
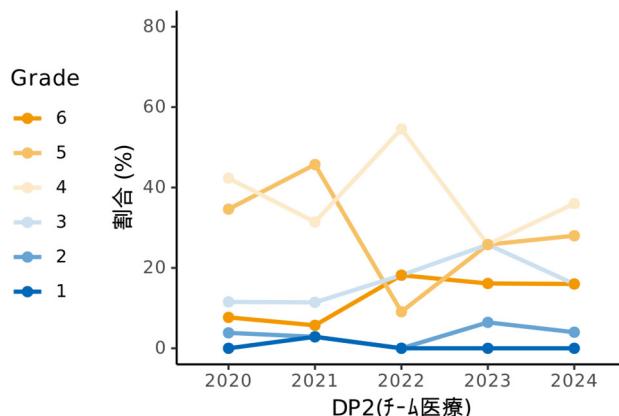
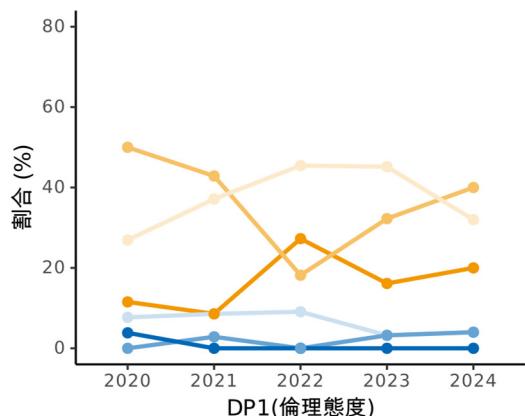


図 6-4. 放射線学科ディプロマ・ポリシーの到達度就職先施設管理者評価（回答割合）の推移

7. 參考資料

2023 年度医療科学部卒業生(臨床検査・放射線の各学科)の就職先施設に対し、図 7-1 示す調査依頼状を送付し、医療科学部ディプロマ・ポリシーおよび各学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度をアンケート調査した。

藤田医科大学 医療科学部卒業生に関する到達度アンケート ディプロマ・ボリシーに関する調査のお願い(依頼書)		藤田医科大学 医療科学部卒業生に関する到達度アンケート ディプロマ・ボリシーに関する調査のお願い(依頼書)	
藤田医科大学 医療科学部 学部長 IR推進センター長	齋藤 邦明 太田 充彦	藤田医科大学 医療科学部卒業生に関する到達度アンケート ディプロマ・ボリシーに関する調査のお願い(依頼書)	藤田医科大学 医療科学部卒業生に関する到達度アンケート ディプロマ・ボリシーに関する調査のお願い(依頼書)
<p>平素は本学の教育に関しまして格別なるご理解とご指導を賜り、深く御礼申し上げます さて、本年度まで貴院でご採用頂きました本学の医療科学部卒業生(臨床検査学科、放射線学科、臨床工学科)を対象とした調査を実施したく、ご協力をお願い致します。本調査は、在学中の医療科学部及び学科別の教育理念(ディプロマ・ボリシー)について、これらが貴院に採用いただいた卒業生にどの程度身についているか、就職先である各施設側より評価をいたしました。既に、卒業生は卒業時に4年間を振り返り、ディプロマ・ボリシーの自己評価を終えております。卒業後数箇月～数年経過したこの時点では、本学卒業生のディプロマ・ボリシー到達度を評価して頂きたく、お取り寄せ申上げます 評価につきましては、配属先の上長にご回答いただきますよう、お取り寄せ頂ければ幸 いです。この調査は、文部科学省が進める私立大学等改革総合支援事業に沿って実施する ものです。業務多忙な中お手数をおかけ致しますが、ご協力賜りますようお願い致します</p>		<p>記</p> <p>調査内容：本学卒業学生の就職先施設によるディプロマ・ボリシー到達度評価調査 回答期間：本書到着日～2024年9月30日(月) 調査対象：2024年4月入職者(2024年3月卒業生) 同一学科(同一職種)で、複数の学生をご採用頂いている場合は、全体的な評 価をお願い致します。</p> <p>調査方法：調査対象について、配属先の上長による調査票への回答</p> <p>同封書類： 1. Google フォームによる WEB 回答のご案内 2. 医療科学部ディプロマ・ボリシー調査内容 3. 各職種ディプロマ・ボリシー調査内容</p> <p>お問い合わせ窓口： 藤田医科大学 事務局 学務部 学生支援課 キャリア支援担当 (TEL 0562-93-9864, FAX 0562-93-4721)</p>	
対象職種	調査回答 URL	調査回答 QR コード	
臨床検査技師	https://forms.gle/gzpmAAwXvKFDZPfe9		
臨床工学科	https://forms.gle/mn4FA65dv49qDgfs58		
診療放射線技師	https://forms.gle/fwQmdjuwy6i5C2zKA		

図 7-1. 卒業生就職先施設へのディプロマ・ポリシー到達度アンケート調査の依頼文（その1）
(医療検査学科・放射線学科)

■ 医療科学部ディプロマ・ポリシー調査内容 ■
藤田医科大学医療科学部のディプロマ・ポリシーについて、その到達度を6段階（悪い、1 < 2 < 3 < 4 < 5 < 良い）で評価してください。

- ・医療科学部ディプロマ・ポリシー評価項目（計8項目）
 1. 医療人としての専門分野の学修内容について知識が修得できていますか。
 2. 人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養が身についていますか。
 3. 対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価する為の情報の統合的で正確な判断を行えるようにそれぞれの専門領域において、必要な行動を示すことができるようになっていませんか。
 4. 國際的視野に立ち、論理的な思考ができ、疑問を解決する行動をとることができますか。
 5. 科学の進歩および医療ニーズの変化に対応し、生理を通して自らを高めることができますか。
 6. 患者および住民の健康の維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任をもった行動をとることができますか。
 7. 専門的な技能を、患者もしくは医療従事者に対して的確かつ安全に適用、提供することができますか。
 8. 患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができるようになっていますか。

■ 各職種ディプロマ・ポリシー調査内容 ■

藤田医科大学医療科学部の各学科ディプロマ・ポリシーについて、その到達度を6段階（悪い、1 < 2 < 3 < 4 < 5 < 良い）で評価してください。

- ・臨床検査技師（臨床検査学科ディプロマ・ポリシー）評価項目（計7項目）
 1. 幅広い教養を身に付け、臨床検査を実践するための基本的な知識と技能が身についていますか。
 2. 医療人として生命の尊さを深く認識し、倫理感と責任感をもって、謙虚で誠実に医療を実践することができますか。
 3. 医療職の専門性および役割を理解し、チーム医療の一員として患者を中心の専門職連携を実践することができるようになっていますか。
 4. 地域医療の重要性を理解し、臨床検査を通して地域と連携した医療・福祉を実践し、社会に貢献することができますか。
 5. 常に進歩する医学・臨床検査学に関心を有し、生涯にわたり自ら成長することができるようになっていますか。
 6. 研究的探究心をもち、グローバルに活躍できる素養が身についていますか。
 7. 医学・臨床検査学に関する問題や課題の発見とその解決に向け、科学的根拠に基づいた思考や判断をできるようになっていますか。

図7-1. 卒業生就職先施設へのディプロマ・ポリシー到達度アンケート調査の依頼文（その2）
(医療検査学科・放射線学科)